二酉志

乾

特別
14
1919
664

特
門 14
號 1919
巻 50
特
門 12
號 2465
巻 1

昭和三十年
六月九日
購求

○本二冊図書寮旧蔵本

前田家の図書の
の帝国図書館に寄託
で事務所をのこす
却て独逸語がよく
することが出来
ることとなる
ことになる、図書を
まる

早稲田大学図書館

第一表　朝鮮本

第二表　芝山並其以前の木邦刻本

第三表　金平本

第一表の一番多く集まつた絵巻が二百六十五種出てゐるが、帝国図書館の蔵の絵巻の総数をこれに加へた数の内訳の絵巻を表にまとめて見ると、朝鮮本を除く節用集の一つの特徴の一つの特徴である

朝鮮本を除く節用集を表にまとめて見ると、

第一表　朝鮮本

第二表　芝山並其以前の木邦刻本

第三表　金平本

第一表の一番多く集まつた絵巻が二百六十五種出てゐるが、帝国図書館の蔵の絵巻の総数をこれに加へた数の内訳の絵巻を表にまとめて見ると、

早稲田大學圖書館

第一表の朝鮮本の絵巻は、

花を絵巻にしたものが、

出版されたものが、

くらいの数の出版

この三種の朝鮮本の絵巻は、

絵巻とうたひ、即ち表紙に絵巻と印の捺してある

うたひ、即ち表紙に絵巻と印のあるものを曲直

瀬道三の系統の人の作品と見なしてゐる。

の朝鮮本は、後来此国古来の絵巻と

へられてゐるが、果して、

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

の義なり又祝の字を用ひしは義文うるはしかるべし
高麗いつころより多くの図書を送つたるの一覧ぶれば
なの出来ず一長あり短あり多くあるのみも推しら
るる
義長院の義印は長い字の様なる文字の後ろに彫つたる
と思ふるこの古印は元亨元年京都南禅寺の設置
大学図書のごとき興味ある指つた人の名を
とる即ち是書
天正十二年六月　朝鮮新於郡氣之
横道孫右衛門

早稲田大學圖書館

えんとこの書元亨元年
元亨又文字僧士義俊の義印提解新行
ようこの十冊ようる出でるこれを正倉の後の朝鮮
の保管京都聖とようくの著した書の韓
新四今流布とじも元の金きこの市泉流書
元亨元年の義印は元亨元年の高麗
う宝用の作しとこと出ずる紀書の編の著した
義慶戊午の初版を南宋二年（西暦一六七二）
あるこの高麗いこの高麗ぶ
とこの年刊であるけれども人名紀会とする

べきものなり

そもそも国し極る例として一の掲くべきものあるそもそも朝鮮の部分高麗時代に於て彫金を用ひて精巧霧刻したるものなれども其原流の傳習を問へば千年金銀象嵌の技刻したるものなるべきハイカラ時代の朝鮮の文物の心酔したるの一例とすべあるべき北支那を打通新刻したるの高く行はれたるものと推定せらるるものと

早稲田大學圖書館

そもそも

朝鮮を四こそ多くの物産多く雄大なるべきなる、芝增上寺の花しかる京都版の一印紙を八幡宮の流れなるものなるべきなるべし、さるの名を言ふ二枚出てそもそもなるべし、宮見しに八の祝しまるを版式を記るべきなる七大小二寸二寸二寸一寸しそもそもあるべき芝のものを五分四方位なるべきものもあるべきなるべし、併しなんも部事の大切び版の樹外の情報もそもそも部の事の版なるを存しもあるべきなるべし、何んそもそも雄大なる部分をもそもそもあるべし

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

ものとも云ふべき敗の一切既に何印あるべう特しく記
るのう迄の長因堂二寺の四ツ一部義しとすると
云ふ論あるも、又先生二部義物を拾ひ四つとなる
ものあるこの、これも立論の手段の入つたものうん
先二角三印位立出たるを花ものあるも、原敗を
今為朝鮮の所しとすると云ふ点を云
ふの断し難きある
流言敗ひ如き立汎るもの帝国大学の術義
もあるも、北のことをいつもや能事中の者の
立宜へ九の云ひたるもの略すが、これを朝鮮の

早稲田大學圖書館

隆集所代の国王が二三代の越の鋼敗法なの
敗法を国王を浮べ浮べ出ひあるもの立汎ひあ
るも不思議なものいが入実の雄大なものである
北外立汎るもの木邦三韓氏出谷の龍翁手鑑
を此めもし帝国図書館の五書集録、帝国大学の
仏文敗石島田鈴一氏の賀流図鑑個用集覧義
敗、木村十春帝国図書館の大敗仁孝皇応新集書
もの如ん大ものの書も所る美るひ
中の記さ新会記手鑑を美出流安を作ることき
手ものとしひ伝えんとするものの敗書

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

安の八ケ年[illegible]の日[illegible]ある本邦[illegible]の地[illegible]
七と特公卿[illegible]（拔文）の後[illegible]の[illegible]
の自慢[illegible]
朝鮮[illegible]の中に編入[illegible]南蠻又[illegible]出[illegible]の後
いくらか[illegible]例へば南蠻[illegible]
清書五十冊のごとき大[illegible]一寸[illegible]刊解
本[illegible]しく[illegible]の流布の板[illegible]
こんを芝[illegible]のごとく[illegible]
刊[illegible]
の[illegible]

早稲田大學圖書館

京[illegible]図書[illegible]の性[illegible]解[illegible]
[illegible]
[illegible]

早稲田大學圖書館

慈溪、寶宋閣所貴、「紙筆」を以て、慈郎のいくつも捺してある。是し帝國圖書館の印のごとくにあるべし

陸列圖書の西に帝國圖書館の不審なる「御本」の丸印

後方本」の朝の捺いつた書物の大全見えた

京禮大全　近世問答

文章軌範　政蘇手簡

伊洛淵源錄　禮記集說大全

善齋全書

これ等を皆ある弥本の印うの捺してあるも捺もぬ立派な

ものもあるこんなものも倫德川或の蔵書であるものもある

ものもあるこんなものもあるものもある帝國圖書館の

もの他手数百点を全しても二百以内のものもある蔵

書しかないものもある

名家の手沢を多く沢山出てゐる以上の一班

ある

鄉藥集要方　著安院　多紀氏

板版如春手澤　成蔵文庫　等ノ蔵印ノ

礼記集說大全　石川丈山蔵

左傳節要　石川丈山書入ノ

　　藤井氏ノ印ノ

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

山谷全集

第五篇四あるべしと一々記臆しがたし

早稲田大學圖書館

第二部　其本　其以前の古刻本　こんを獨上
の関係を以て陳列してあるべし此の部に於ては
二種位は出版のおのおのうち
此の部つゞ一番古るいものを例の未本東京の百花洲
の活字、石印の寫真版時代のものあるが、此の版も
也世界文庫のものとして流行することが出来る四種ある
うち由三種は出版出てをるに
こんを次にうつを仕出寫集、こんを永元四年の版
び洞門深化の撰ひある繪入のいろ〳〵活文を
出版されたが活文以外のこんをうつを刻されたの

早稲田大學圖書館

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

活字版のことなどもまた始まる
ようなものを立派なレッテルを
貼ることになる
寛永三年の刊本が著中間答を出てくることを
逆和文義と書家図の間答を
古雅なる片仮名文のものあるもの家の珍
本なる実録の跡を尋ねて無駄も
しなかったものを家の北のものひとつこれを大言
重成刊行と刻したるを帝国図書館の所蔵
前まるべきを誤まるべきの例の方法を出資して刊
行したる首楞厳経義疏も出てきたるこれを驚き

二年の版と変りの五の器名を刻してある意味中間答
とする帝国図書館の自慢ひとつ此の年代より
まもなくこれを移転出てきたるこれを
要取刻する板を完成した
正平版の論語集解も発見出てきたる内
閣文庫のうち流布一番よりの板であるこれ次々の
も天文版の南家論語ひとつ一名東京為論と云
なんとなく、ひとつも版を南家者なるものを
ふ
天文版のものを記録代基本二種を出てきたる

早稲田大學圖書館

勅版と一つもそなへそうたる
天正十八年刊行の節用集を出て、そうたるこんを
無地の紙のようなものもあるを、奥書をた
のことく記してある
右北枝本者多田大鳥印協南庵石屋所伝師屋
寸法天正十八年 慶長元辰
文禄二年活字版の草本 弟子補注(北枝)云々活字
本ではなくてこのようなる、特谷板本も自分ひそかに流布
の中でこんを第一に推すと云ふなり
京都の四十嵐普斎刊出した地蔵菩薩十王経
寸法二ツ文永三年の彫版ひあるその言葉政らし
いようで轉に無延と俗えてくらした笑瑞なる端
麗なる俗ら画うんとてこんを土佐光信の筆とか
ある、挿画も勅版なる、本ドもあるを石清水たゞ
雅紙をもちひてこれをしたるもの
うう
節用集(文安二年板)も或板を出てそうたる併しも兼
本うるそうつた、北枝伝寸法とやうもそなへ耶う
うのようなる高的方こ板をもあること云ふ推し得
ようる呈明氏の行草の節用集をこ寸法ひく

早稲田大學圖書館

思ふなれど
早稲田大学の新字入を既解する好ち悔つ
に流言を以て板を作ることの印刷したるこん
ハ書史の材料となるに於て傳値うある
流布せるの東鑑これも今で世を変ずる得ちん
ちいとなるべうに
貞永式目（貞永元年）に発出て、ちうに比較し
たるとすれ合も不義の合も
刑に五条ずつ日ちく、後の一条を刑に分ある、何
んう新らしき知れしぐさし或を四条刑に

条ずつ方ちうしと知のるも刑に分ある板を刑に丈
刷り変しるるもの知るるうるさる経ちも
五条敗の伊勢物語うに二部出てちうに学ん
けども見たることなんう如もちうる傳く京揮画印
本の初めちうと五条の印刷を用ひて印刷ちる
五条敗の名ある
日本書紀（流布せる）も数種出てちうに比較し
たることもしつ条ちうちも優劣ある
しかし内閣文庫不義の合も深草元
政手沢のちうとちある

早稲田大学図書館

早稲田大學圖書館

慶長版字形の論議も或程の出て来たれば如此しんぬる
ほど大なる事にもあらざれども或は版を改めたるものあ
るべし、広寛人物の研究なるべし
三種ある中に初版は(一)年號なし(二)無界
寺本これを無界刊とあり(三)ただ版のみ広寛
版と三種なるべし
其他刊の俗説に出版したること
慶長不記のものの如き珍らしくなんれんを
なる日本の俗説につけたる善通なる俗
説と大いに説を異にしたる特筆すべき所

び拓斎の印を捺したるもの
其他活字版の句解南華真経(早稲田文庫)
を浮屠の手沢なりとそれ浮屠とあるを毎
巻井明後学の記印を捺したるもの
刊年不明の印を捺したるものを早稲田文庫出し
此廓庵和尚十牛図なるものを五山版なるべ
きものの如き紙数の入れたるものを所謂版とすべき
ものなり
五経西文、これを母の山に脱と称するものは大内義
隆の日本紀を文部省に文部省にて印刷せしめたるもの

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

傳説のある書籍を即ち[illegible]ある墨客輯的[illegible]
[illegible]ある[illegible]本の校[illegible]
成唯識論の經[illegible]三[illegible]出[illegible]
僧寛弘の[illegible]刻[illegible]版式[illegible]
[illegible]極[illegible]版[illegible]と[illegible]
[illegible]版と移[illegible]
[illegible]
後[illegible]本の節用集[illegible]出[illegible]今の[illegible]
塩瀬の祖即ち[illegible]林和清の[illegible]
[illegible]塩[illegible]の商標を[illegible]
[illegible]

早稲田大學圖書館

[illegible]の二[illegible]の自[illegible]序文[illegible]
[illegible]係し[illegible]刊[illegible]
[illegible]ことを用[illegible]同しいのと[illegible]方
の一つ[illegible]一日[illegible]
少しく版式を異[illegible]千歳版[illegible]
老子鬳斎口義、[illegible]道春自筆(朱字)の
序文[illegible]
[illegible]上乗の[illegible]
年代[illegible]
[illegible]版と版式を異[illegible]
[illegible]論[illegible]一冊出[illegible]鄭[illegible]

國刊の版刻したものを序文の書体などから正平版
のものと似てゐる、然るに其以前のものもあり
て、
巻子にした版木や版刻の写真なども出た 板木を大
唐西京五寺に於て永正八年刻 真言儀軌板を一枚世紀
概論板をこの上に板(カ)六百年前のものゝ) 黒板経表紙
で異福寺五寺経文版木板なども出てゐる此
も恭しく現存してゐる板木の最古のものである

第三類 金平本 金平本は歴史的景色極めて
少くてそれを求めるに困難なるいくらもある 金平本
とキンペイ本は後者 公平本を二ヨウヘイ本と後者 族の
大分多い位 こゝに特に図書展覧会に出す光
寿丸生涯のものである
さて集まりに金平本の多数を帝国大学の所蔵
行のようにが特色言ふ方式のものである、これと其の元ひ同
しこゝに出たのを特色が異て其の題を弱り
を大きく構つたのである、さて本元を何でもうと云ふ
難い餐行なるが勉強の重要」う解して云つたのである

早稲田大學圖書館

重家の家系なる古文書類を収集する事の
を報じたる重家の手紙悔しく終に特発表に
たるのみならず即ち一ひもの
出版金王本の内なるものは正保版ひもの
小本ひもの　正保のものなる所らしい萬治頃のもの
なる次き寛文版なるものと大分違ひある事も京都
で出版したものひもの、大変の有るものなる原
版を使ひ摺つたものと覚しく　為に稍し新らし
い様な思ひのする風俗し版を作る難ひ開板
のあれ才一刷を試みたものなるのこと

えるものを行ひ、考し仮定を変する一点
ひもの
金王本と近来ものとの比較もしたる稀れのあれば片
々なる考ひ立ひ出るの要んとする為傳を作る為
しくの手う出ない、係し金王式の作を仮
義を離れたものとしく味うあるもの
書き変へたものこの為上を参考の後作る為
て作成するものと文章の程度ひこれを使ひ解み
書物とお解をも書の表紙を上げる、現る今
後の考へる　九月廿の中旬（三日西以）る

早稲田大學圖書館

八通のくこんの石碑あるを出版し今回の事用途
とゝつて石碑解説の図録を二百四ひろけ
んば幾ばくか新たつてある、言葉は此の書物をあら
ゆ前ぶれを二三十四ひ買元比ひ白日鳥居元
氏まをを二十四ひ買つ比とゝある此稿の今の
商估ゝ喜ぶの利益を與ふる此くひある金をえん
ひ願んをてつた毎日〳〵書を買て居る図書館
のこんを人をつくるを言を馬鹿氣ゝ居る
何んをを氏本ををるくしも買うも用ひてある
うををくく自又ひある此ゝ則ち今の影響の市價

ゝ及ぶをこと大をるを云ふのである
此の居ゝ帳をんをを大坂の時古家十数ひざく
上来ゝ比以ゝ今の此書畢の注意を為比
概況をあるべきひある

明治十年四月二日　幸輝宇人識

紀州ひりの

東葵文庫蔵

紫宸殿聖賢障子絵図

住吉内記廣行画

古瀬特里撰文

矢部氏をゝ出版をんをを

早稲田大學圖書館

○所新道和部長ら十二人の発球部員を率し米国へ出
発するものあること二月の当初なれば一行を歓
送せんとして送別会を五月二日に於て
の席上に於て一二の挨拶を述べ、所印の
話ありて一行の往航を祈る間寄港する
ことなるべき日本の異人なりし浦花の間に
試合を始むべきことなれば、係員なるスタンド
ードと試合をせる前に之れを吸収する
様なるものなれば、第二の敵をもつて
ならざることを決したり

七月廿日を以て一戦を試むることを約したり、高商
生なるものと一の戦しにこと出なる、そんな所印の
十二名の選手を海軍を中心とする中堅にあつた何
方と為なるべき、この米国のテームの高法
であるが、テームを出すことを断して横浜港を
行はさるべきの理由、ただ一つの理由を長い立ち
寄風なるべき彼の動機を交ることあるべしと云
ハ出ずるを上げることなるべし此の花の海戦をみる
所北陸の海戦を見たる一つなり、そんな高商
で六事務科の方形講演の高上演説

早稲田大学図書館

を試みに其中を米国で上流社会で御節を拵へ
吉原うらうらまでいい弾を十三の数を忘れること
ゴ高しい、今地の一行を保めるとき十二人の者
地を入りて注意を要すること、なれば何の云ふ
ることこの中を集め四人ばかり注意を受けたる
行人先を作る注意今ばかり呼び出すと云ふ
時を一人を減ずるは日本人一人を減ずる
俗の出来ずるを知ること、今日の河
部を一行を拵へ作る四人凱歌
を記いしの比、作者を出発
を蒙る小波が節を歌

云々の節があるべき筈なれども出発を以て完成
すべきを拵へた、（四月三日朝記す）

○此ころ浅草の人形寄つた打絵をきの中に流し
出すと、ここに高名の時を為したる
それを早稲田の事を出で伊藤を出かけ今を練り
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
一時の○改まつたるまつたるまつたるまつたる
者の色彩を新たのものを菊集をえを新
して色彩や拵の流行を見る料を使したる
ら多の益をもまつたるまつたるまつたる本年の一月より

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

九月の花集をつとめ文学の研究も集めたりそれ
あるいは集まりたるもの多くは今の俳諧歌
者を「マツチ」の高樓を何の為に集めたるとやらん
らんと一番の物数寄とこの為きわめ
○七月の終り頃より潤色う廣めて、ある意味にて新角度の意
味なる陸奥廣なの外交をば、あるいは
絵巻代記を書きもれたるが、さんざんと一回の記事を
困つた挨拶あり昨日のことを、絵巻人を悪しざまに言ふ
ふい昨日さえつ〳〵困つた所を言うてゐる、それを
どんなものか鉄丘うあることを一昨日陸奥廣なる

八鉄丘の者は多くうつたえ、文の子も言ひ廣
を鉄丘文をすんで徳家しと云へば先の文の二種うい
あるひあるう、言葉とうの人を東欠丘ぐらけの人び
あつたるもの人をおんに若方もしてゐる
隠しを自ら鉄丘を稽めもし又ものあるそうにこ
んなるを惟に和歌師をあるを言つたもの無あるも
うう歌詠りの野郎（えんうまく欠丘）うの廣をのび
でこうしを見てくれるもの、そう上成殺び
第三者の編の一向自分の人情う一向情うの
うう溜まるへ、昨日の事をもう一寸しに注も

往来船舶の行色を見て、ことう往来あるべどうしん
この位なまーづ張あるべきようにいと怪しきい、掠ること
うあつた、えんえん潤を以て数えること無尽にて、
人を信ぜぬ、こゝの中に、あんな人を信ずる
義とてなりて何ぞ無し得ずとも大の家を力ある
の一般を訴ふるまびある
えんえんの改革をも説きて一つ
まとまるを思ふ、えんえん今私組織の改革
河岸の経済をも今私の経済をも如何に載せる任界
を立て今私もしん承知の数うに思へ、えんえんのある藩の

読る言の伝承をもんつ、メード、メン丈を人を軽蔑
自ら地道なこつ〳〵生る流義ひ、人の生や政府の
力をもあるべしと考る流義をもつとまるべ政党
の関係をどうもひんぬらしい、えんえん西国をも
人も承を離れんえんを飛脚困る掠るひ政府の邪魔
交渉をの七人を欠キ陣くことう出来西国
もあるべきう今立を政府を断つことを出来と
ありてあるべうえん、井上伯をこの関係をどうの
とをあを承を表面を元の国内を掠伯
この井共の干渉を言ひの政内ひんしてるとと

たるべし

○[illegible]の[illegible]の[illegible]の

昭和大學圖書館

此の書冊を持ち来り[illegible]
[illegible]
[illegible]

しの文を和故とするを弦を[illegible]
世事を神佛の異渡の論[illegible]
[illegible]の多しかく計り書籍の缺乏なる時世一朝急
[illegible]書籍を收[illegible]
[illegible]
（前号）征韓役後彼我の紀言疏通せずして朝鮮の
書籍を来るもの稀なり夢右日韓の通商
の勢力せしうるも書籍の来まんとして拒絶めし、さんば
享和二年（一八〇二）海舶の木村英毅の「朝鮮紀遊」
いはゆる朝鮮の役後商[illegible]
[illegible]

早稲田大學圖書館

述のもの 新元聚寶 鄉京集成方 村家教名方
改事撮要 兵略説 祥刑猪要説 農事直説
新增[illegible]の牛馬羊猪療 三韓詩龜鑑 [illegible]
ころ也 其外東涯の三韓記[illegible]
又曰く朝鮮の書を北方に伝[illegible]
[illegible]北方に伝[illegible]東
醫寶鑑、東人詩話、[illegible]杉都録 金鰲新話等
のお或くこうあると思し実況[illegible]
[illegible]年〻入貢する韓
使[illegible]朝鮮の[illegible]

早稲田大學圖書館

「四の同源流」も現存の朝鮮の経籍を多くは使
節の帰朝せるものとなし 幕府の昌平坂学
問所中にも朝鮮本中なるものあれども、
多くは輯佚の帰朝せるものにして さんと三る
年写せるの一法なるべけれ 船大数の経籍を輸入
しうは朝鮮の経籍傳来の如果 勝若るとも
事を差し幕府に於て之を禁ずること元弧以
あり於て徒に大本を家の経籍の如既ちるものを
朝鮮本の最神書を受けること
法なのこと思ふ

朝鮮書法の傳来は是邦時世の盛衰の時を従うて
かつて「常山楷筆帖」をもちいはく其元の迹、
文運隆盛のとき 書法を学ぶ朝鮮の風
元を豊臣秀吉朝鮮を攻めんしのとき 生々の中
のものしき書法 所なる人のもとへ一所なるといつの
学ぶ名噪ぎし 伝云 (伝と未)元末も朝鮮の書法
のもとなる(中略) 草露貫珠(石庵版)は近世をう
書学の大成なる 若者を朝鮮流の
書家なるて其書則ち朝鮮流の書法を伝ふること
此のみし 之草露貫珠の手書なるもまた朝

鮮の古法を傳へば

○朝鮮の法帖と名づくる朝鮮帖帖あるべし
と雖も實世時を隔てまたまた社科すべし
帖ひとつとして兵庫の新家紳士
う世を政らしいものあるを朝鮮の國士
とを参敬するを鄭書閔の書の流れと
なるなり傳必ずしもとかへるもあり

○鄭閔書を言ふを逆ふ國書流を弾し傳へ
の書と一致ひとりなる彼しかるに本ことのある人に此の
人の集を閔源集と云ひなるの長説を言ふ

と利本名を鄭て出て、左のうなる傳潭元
い、朝鮮と云る校友もの集を元を載法
版の附し日ぬる鈔つたことがあるぶんも多
得雑いものとなる此の人を朝鮮を校正の法
世京と呼ん又現者の社と出家のんと云る人びある
こんな次くの本の遺民ひ此の人の集書遺民集も
稀のものあるう大学の長吉十の一印あるの？
なるかの名を出て、なるに

○活版術は古くから集澤を開生る日ぶる古る
くなるが銅活字を朝鮮うる此年一このう初め

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

ある物と思はれる、木造流なども朝鮮を経て
用ゐられたことなどは別に
考へたことなし、それを大変たのめしめる
廣島県陝川郡海印寺といふ所に新羅の典
籍を日本に貢もしころ十一棟の書庫を設
せしが此の保存せる書に新しく木活版を以て
すりたる漢籍を以て廣略の説を因寺院の説を
朝鮮朝鮮ともいふ朝貢もしたれどもこ
れと同流なる印刷しなるべきもの
本邦に輸入したるべ

しと（横山文学士の意見による）

○その原産地は江雲渭松と細密に朱白朱白字と
立ひちうひに刻した印の捺したもの二三冊見えた印も
内容文学の玉芸の作る会大体（弘和四年刊）と云
ちうことき文の一部あるも、此の印を帝国図書館の調査
と称する林羅山の印であるとひ此の書の原山の手
筆であることうたとうつたとうよ事
○人間の副物をもイうと呼び木乃伊といふ支那ではが元
でもあるう一説では頭骨内の脳を掻き出し其のあとを
空虚にして麻布の屑と土漆きをを詰める、此を

土瀝青をアラビヤとゝ公ミヤとゝゝ之を用ゐて
つくるゝゝ其の名を呼ぶゝゝ
ある、大抵を北絵をを強してゝゝ塔井戸井の絵
ゝゝ腹へ流るゝ物質の中ゝゴムの様ゝゝ或ハ
ゝゝとゝゝゝのある、巡ゝゝ北のミイルゝゝ軽北
しゝのゝあるゝとゝゝゝ
○流ゝゝ小唄ゝ右ゝ作ゝ琴ゝゝん琴淡路の不
思議拍子ゝ大ゝゝ
ゝ文の芸書ゝいゝゝゝ北沢住職を問を尋る
ゝ 某法墓位ゝゝ書ゝ北人の作のゝ 又某伝統

宗の校正を作ゝゝ北人ゝゝ 和尚後雅の逸
物ゝ入ゝゝ某教ゝ和意を刻ゝ
ゝゝ
○經藏谷ゝゝ言ゝ彫ゝ稱ゝ書也 於浮ゝ
ゝの走ゝ不ゝゝゝ素刻書目を作ゝ人
ゝ我邦の書史ゝゝ 住ゝ人ゝ
○北沢法ゝ古刻 御文章（浮世草子の裏用集）
ゝゝ生を浮ゝ 奥ゝ 題出の二ゝゝ花押ゝ拓ゝゝ
ゝゝ裏書ゝ思ゝ 常北の御文を蓮如
ゝ作ゝ題如ゝゝ上木ゝゝゝゝゝ

早稲田大學圖書館

[illegible]の御文を[illegible]と自得し[illegible]
[illegible]を[illegible]北吉の茅舎を余
[illegible]法師人奥書花押入
四條畷を文化十四年十月十分武州[illegible]骨董録
倚兵衛と云ふ人[illegible]得[illegible]
道如上人滅後早く御文章を上木せんとの[illegible]
[illegible]国[illegible]人を文盲にして[illegible]
[illegible]の[illegible]文章も其[illegible]
[illegible]
○御文章[illegible]は又曰く「蓮如上人滅後[illegible]

[illegible]を集め次の宗如上人の代に板刻[illegible]
[illegible]西[illegible]代に刻を名古屋に[illegible]
[illegible]代の刻本を[illegible]
新に彫[illegible]石井三左衛門[illegible]御文
彫刻[illegible]上人を[illegible]其の前は一面[illegible]
[illegible]代に[illegible]刻の[illegible]
上人自筆の[illegible]石井氏の[illegible]」
○園[illegible]の[illegible]
[illegible]エライ[illegible]黄蘗宗[illegible]
[illegible]の[illegible]

注解参ゐ左のごとく書へてあり

後の尾張御家の事なるも龍雄なるゝ今の世も

因縁のめぐり大徳也あるゝ和と御ゝ好の印的為校の

内ゝ黄蘗宗伝紀第五巻ゆるきん好ゝ世紀のよ

金ゝ金井高郎寺之伝説ゝ彼の家つゝ龍能

一枚紙写蔵と称しゝ本の庵ゝ御校と計りあり

元禄寛の文のことゝ元ゝ高の名俗のゝ長きユレシキ

の事ゝ事実あり行ゝ元ゝと思ふ

○支版と部第ゝ中の其実ゝ元ゝ

元ゝ注解参ゐの後ゝ支部の支版ゝ和部書校

ゝのゝ飯刻ゝ行ゝ弟ゝ左の書目を抜摘ゝ

四書大全 新版 古校

五経大全

徐氏針灸大全

古今医統書

京四次注 京都 月校

○宋商書の書物を参ゐ元ゝ宋商書ゝ

賞原ゝ元ゝ人 印ゝ古文四書ゝの著者

島田翰の記ゝ元ゝ

東京帝国大学図書館

秘府所儲秘笈、洪如埋海、而大要分為二、其壹籍文庫者、即收於德川氏紅葉山文庫本、佑伯毛利氏獻本、高標所聚、至其孫昌平坂學問所本、昌平黌獻、獻諸幕府、（淺草文庫、耳敬內閣千代田文庫收在秘府、帝室博物館等、而其輝則收在秘府）及夫新收本（大抵係于青山相公古澤公堂氏所採收）牙籤煥爛、古芸馥馥、雖天祿石渠之秘、蓋無以尚焉、（楓山本、至昌平本為在來本、名新收本、新購井白石本、桂宮獻本、古賀氏及德山毛利氏獻本等是也）買本、而就新文庫所收、則待講舊本、新

○畫史云、檀香解濕氣、畫必用檀軸者、蓋、開匣有香而無蠹氣、又解霉也、振北舊時裝軸粘表之制、亦畧可見矣、云、而秘府四鈔卷子本左氏集解、及辭書注要等書、多用紫檀軸者、賴以解霉濕也、（九文舊書考）

○旋風葉　何謂旋風葉、余猶逮見舊鈔本論語及醒醐雜事記、所謂旋風葉裝也、旋風葉者、蓋出於卷子之變、夫卷子之制、每接一書、抽閱展舒、甚為煩數、於是後世取卷子、疊摺成冊、而折一張襍紙、緊粘其首尾於襍紙、猶宋槧藏經、而其制微異、而其翻風之狀、宛轉如旋風、而兩々尚不相離、則又似囊子、故皇國謂之囊草子也（日上書冊裝潢考）

○蝴蝶裝　疑曜云、今秘閣中所藏宋版諸書、皆如今制鄉會進呈試錄、謂之蝴蝶裝、其翻經數百年

不脫落、蓋古者書冊皆裝為卷子、其後以卷舒之難、因而為旋風摺葉、久而摺斷、乃以糊粘其摺折處、因為冊子、謂之蝴蝶裝也、夫如今之冊頁、作而翼相合對之形、是代糊以絲、則當然也、而蝴蝶裝、則反折之如兩翼相背、而皆倒摺四周外向、蝴蝶裝之名蓋由是起也　仝上　仝上

○佚存叢書　支那の古書、すでに絶滅したるもの、すくなからず、即ち西漢の孔安國注の書籍も東漢の鄭玄注の書籍も唐の玄宗皇帝開元御注の書籍も現の顧野王の玉篇も皆支那より絶滅したる玉篇のごときの書籍、我京都六角寺、伊勢船寺蓋木山某の保存せんなど、此の他二三にとどまれども、而して佚存の叢書、すでに貴重なるものを我朱逮堂の叢書を作るなるものを我朱逮堂の目録を掲ぐ

第一帙

古文尚書孔傳　一本　孔安國撰

五行大義五本　隋蕭吉撰

臣軌二本　唐武后撰

樂書要錄三本　第十卷　秩七本　存五六七三本

西京新記 唐韋述撰 原四卷 佚四卷 今存第三卷

李崎雜說二卷 唐中書令鄭國公李崎撰

第二帙

文館詞林 唐許敬宗劉伯莊等撰 原一千卷 今存四卷

朱子感興詩一卷 朱文公著

附 武夷櫂歌一卷

泰軒易傳六卷 宋李中正撰

左氏蒙求一卷 吳化龍撰

第三帙

唐才子傳十卷 元辛文房撰

雜注集注五卷 唐國秦撰人撰（佚名の人）

附 王九思詩集錄

第四帙

古本蒙求三卷 唐李翰撰

玉堂嘉話二十卷 南宋王欽若著

附 西垣類稿二卷

又 玉堂附錄一卷

第五帙

內篇新論義十卷 宋龍昌期撰

第六帙

宋景文公集 原一百五十卷 今存三十二卷

內 又殘闕十卷

○近代叢書等に見えたる諸の書のうち明代以前の版本の
黎庶昌の日本に遺存する版本を得て再刻せ
しめ又楊守敬が一部の書冊を持ち帰り即ち宋蜀大字本の
爾雅三卷（郭璞注）等を三十種二百卷を得て、又唐宋
の版本の傳雲龍の所藏せし圖書も亦凡そ
三十種二百餘卷を得たり、以て彼の書の我が邦に
多きを知るべし
○日本にて初刻版の古きを寶龜版（百萬塔の納めらるる陀
羅尼）とす、然れども未だ前に刻版せられしを
聖川真頼氏既に之を知れり其の版下の改ま

る伏傳の如きを以て寶龜版を古とみなす
如し、古文舊書多く四科本序の注に曰く
聖川真頼氏按日本國現報善惡異記、以孝謙天皇
天平勝寶二年大伴赤麿罪犯懺悔文、以為刻版起原
之（北魏是也）似其版本今已佚不傳、且北方恐屬短簡
故今以寶龜陀羅尼冠首、又案、或以摺衣、及任回集慶
雲四年下毛野麻呂對策文、泛鏤降詔、刻魯冊之稅典為
其歌刻、然刻則編勒之意、非刊刻之謂、且摺衣已昉于
後漢時、若以摺衣為刻版之說、則虞土三代固有石刻矣、
而後漢書王符傳亦言、滕千為巧、元魚都邑則雕鏤之屬

早稲田大學圖書館

三代而漢固有之、然以是為刻版之始、則此亦依史通論、隋書
云、太宗崩後、刊勒始成之文、以為唐初有隋書刻版之始
也。

○活字刊行 古文の書多若者(ごく)

始余讀慶長活字本、見其避宋諱、以為聚珍之書、皆出
於宋本、已而校之於宋本、乃知不甚必出於宋本、又實有根原
元明本以下者、後讀秘府之書、以元和活字辯書沿革對
校之於秘府舊鈔卷子本、活字本所避諱、真元亨利貞貞字活字本作貞
亟(御本、蹇注孰心不問、志注王室者也、活本作亟)
決、況而讀書記、始知慶長活字之實為朝鮮所鑄、蓋豊
公征韓之役、其國輸活字、為我將士所收、德川家康、即使三要
等用是以刻諸書、而原刷宋諱、乃因之耳、今德川侯爵
所藏活字是也、不然、沿要之鈔、實原本の鈔本、而其傳
鈔則在鍾倉氏時、況沿要一書、天下僅存此一通而已、活字
本之根於此者、安可知也、而庭宋諱、是不其明乎
○林述齋供奉書、多くの供奉を給ふ、佛書を
一切漢文、紙幅長闊、左のごとく記
し以て其の流傳を補ふ、後是者多し
近来朱家に供奉書を系出清朝、活字候、左の如
書ぞ、佛書の活版は一向に左の書迄々御外集

と云へる人名佛書に不及ものも格外の佛書注釋和我朝の
もの書にも候所なし御問しの書籍の序跋の類くも
時々引りもの書き存ずるもの也佛書注釋の書
も任意名の助ともなる事存ず

惠琳一切經音義

希麟續一切經音義

新楚六帖

釋氏要覽

止觀助覽

文句義雜

景祐天寶字源

閑居編　松山堂円全集ニ

北磵全集

貞元釋表録

右等の書大抵為任僧為任又儒為任等と云載四庫全書法
目提要稽古の部ものもの元へ不出ず唐山刻典と存
候

○正平本論語則先儒皆以為出於隋唐然顏淵篇注鄭玄
作鄭元宋始祖名玄朗故諱改元字其出於北宋本審矣或
以其書盡弁古疑之然觀宋乾道刊本禮記多存六朝英文

東京帝國大學圖書館

然則是書之為從宋本所傳刻、無復可疑矣 古文四書序

○南宋寺單注本論語、係阿佛井野某所刻、或云、出於單注本、或以為欽陽内翰真蹟、今取以校諸正平本、鑿々多合、人或以清原宣賢有今要得家本重鐫梓、遂撰單葉的本以付云云跋、為原於皇國舊本、而是書與清原氏所傳舊鈔本不符、却與開版石本及正平本合、觀此可以見、当時清氏相承舊本多佚、跋所言家本、即指正平本、非別有所謂家本者也 仝上

○注釋考問ハ茅元ハ義印義平を載ハ今有ハ

讀畊齋藏書記

林春德の義吉印ハ 春德ハ道春の次男春斎先生の本也

白雲書庫

林道春子野間三竹義吉印也

武州金杉
壽永寺藏書
不許賣買

武州金杉邨千束村郷浄土律の寺ハ
淀君原中納言改易の御女家の祈願寺
北寺と男ひえりとハと傳ふ

早稲田大學圖書館

續車

虎ノ門ノ隅ノ内藤家藩本田子爵先代侯ハ
博学ヲ好ミ御仁ト称セラレ御学問ノ
ヲ好ミ俳諧ヲ風雅ト仰ク彩ノ
御意ヲ蒙リ蔵ハ多ク心ヲ薄板ス
儒黄の佶快也

雪軒脇坂淡路守藏書記

脇坂淡路守藩書印ヲ捺ス藩書ハ大体此の素
朴ナル出来物ニ刻本多シ多クハ唐
本熱ウラ打ヲシ丹表紙ヲカケタ
又龍吟文庫藤原安元の印を鈐シタ
ルモノ

妙解文庫

武州西川野東海寺塔中妙解庵ノ蔵印也
此寺院の本多クハ五山ノモノ

浅草文庫

四初官醫板板ト云フ藩書ヲ捨テタトコロノモノ
ト云フモ元来甲陽武田家医士也祖祖御
一統の板江戸人、見し抱くらう、ト云の
山地金龍山浅草大興寺の北表市士浅
川言く向し右の角ヲ右江戸後国元
板坂宗悦地割ヲ支地ヲ稲ヲ客
ヲ板坂稲ヲ云ふ

行付車
本宰文
戸广广

亀戸天神の社人義方と押印何の某と
云ふ仁う流とする所なくし 梅北印
本所宰角文庫の上方に所府庫
の三字を左右に分ちたるなん

留蠹書房
儲蔵志

伊丹木坦義初田の義方印也、文府御
医の吉田林庵の養子也 算博と称す

瑞光蘭若

深川瑞光寺の祖元政上人の義方印也

虎平郎文庫

西園寺の大臣と云ふ寛政の初年在
義方印を押す所多くあり

三聖寺

京都五山の内東福寺一万寺と云 塔中九
三聖寺開山湛照和尚入宋の御請来
の一切経を多く捺す

天海蔵

慈眼大師ノ印なり 元和年 叡山大王
法華本王 浅川集御備 二百ノ候
印在吉の表紙に捺すを見る

早稲田大学図書館

○日本の書籍を清朝に送りとどけるもの（き）任意答つ
たの数書を屋けたること

春草堂校本書籍知不足齋叢書第一集之載之天保年
中又船来嵩山房刊刻す序跋計大抵之
雕刻あること

論語義疏　山尾粲根遜志校本南部序文
共刻しとること和刊之叢書四集之入とる清人
序文あること

七紙孟子考文補遺　北条氏の清院刷官刻を原也
之義湯十文字とす紙く摺も唐山に出さる

[illegible]
[illegible]

泰考　二年清人玩元序して刻、唐山に及
庫本ハ字ととるとる既の四庫全書へ
編目提要の収とること

正平板論語清人錢厚土跋書敬求記之入とる錢
氏序文中此本を高麗本ととること誤也

東鑑（国朝書）ゆる朱桑尊曝書亭集之見る

○我東鑑之書する朱氏の跋文を先のべし

早稲田大學圖書館

五書鏡跋 五書鏡五十二卷亦名東鑑、撰人姓氏未詳前
有文長十年序後有寛永三年四人林道春後序則鏤板
之歳也、編中所載始　安德天皇治承四年庚子記
亀山院天皇文永三年七月凡八十有七年歳月日陰時之書
徐記將軍執權次第及會射之節其文義芬馥又點侯
訓于音譯之不易而四之大事之略之所謂不賢者識其
小者而已外議惟京院人者之往々流入中土若鄭舜監
京院史中叔舟海東諸國記以及東國通鑑史略諸書
多可攻訂日本貢不修故其長授受次第自爾然所紀
外相傳頗異同臨淮侯李言恭撰日本考記共四書土俗
頗詳而四王世傳未明晰編以勘海東諸國記則不若叔舟之
得其要矣康熙甲辰獲是書于鄭東京氏之贅古堂
後四十三年乃帰情架惜乎六冊七之失玄慶長十年歳
第庚三十二年寛永三年者時天啓四年也
○手家物行詩判冊の著者を由井正雪とするこゝろつき所
稱名ゆゑ
前冊
前冊目録の石摺行名者の作とすること元行人やら不知
の一件かゝりのこゝろ連名の中行き方不知とこゝ
ろ中々石摺多石者つとゝ〳〵ものもし、さそんは

早稲田大学図書館

[illegible]利の正雪の作と云ふ一説かさのちきるもあるす

○破本録　平家物語の文庫なる森高須自筆の[illegible]本なる[illegible]

[illegible]の中なる[illegible]勝興寺の[illegible]花の御[illegible]を

大[illegible]ふ[illegible]所[illegible]六丁目[illegible]我[illegible]き[illegible]

[illegible]の[illegible]兵衛[illegible]一切の[illegible]きことば

行[illegible]の[illegible]冊目と云ふ[illegible]地方の書と同しき本を写[illegible]

[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]

[illegible]ば[illegible]余[illegible]強[illegible]記

[illegible]しまし不忘中[illegible]

りと

○天文版論語集解を刻[illegible]南の[illegible]阿佐井[illegible]人は

書物[illegible]の[illegible]しくん論語[illegible]の[illegible]書[illegible]三

体[illegible]を刻[illegible]今[illegible]三

[illegible]の刻[illegible]書[illegible]の板[illegible]

○十三経[illegible]目宋元[illegible]版南宋遺

本[illegible]南宋の[illegible]初めの人南

宋時分の別行の善本を取集め初めて十三経とす[illegible]

[illegible]廣[illegible]経を[illegible]

云[illegible]十二経[illegible]云[illegible]

[illegible]と文徴明[illegible]

早稲田大学図書館

神代十三紙を写す　紙背参照

○紙背参照又云大般若経我邦にて刊行する凡そ九版あり

一東大寺版　一東叡山天海僧正版本

一町板　寛文年中市井某心刻　一嵯峨版　細字本　嵯峨本系弥勒版

一黄檗山寛永院版　二種　折経　開経　別版

一東叡山新雕版

北外に全部そなはるこの二種なり

時呼仏法等なりしかども金光明経は古版若経写得版

御手自修覆を加へられる薬師寺千紙数一万二千枚に

り如此大部経九版ありしかども紙数を知る者十三紙

注疏印板不分明なるもの（きしるべき）

○因に書き添へんに京都の書林甲乙多きまつ八月

にて板を出しと記せり九版共京都にて

保元の法を設けられと雖も多くの板木の

内にて北野目七色金さんあることなるべし

一仲雲貫珠

一参考太平記

一仝保元平治物語

一新撰物語

一 花押藪
一 續花押藪
一 菜香文集
一 菜香朱氏族譜
一 敕撰四庫全書
一 古篆彙選
一 洪武正韻
一 医宗必讀
一 拾遺往生傳
一 雜太平記

一 三國志考
一 愚齋文集
○支那にて校讐の係度なきなれば一版出来の後重版等
んな出で、伝ふ或は重版を免れんなれば巧みに工風を
しいなれし即ち度數回まるべき注釈者の記す
る不必要
唐山にて出来の和書は雕刻の上に重版影
しく、うまくなりとなくて
なれ模刻を巡覧紙をあいまを考へ諸国中に
ん流しに外益を忘らしなれ其上重版いたす

早稲田大學圖書館

と盛衰と之に関する流弊の故意なる則新巻要永邦
と有なる地方を紹介する出す

○常考刻書之事、至宋而精、元則衰、明初以至嘉靖、是為盛、明末再衰、至清康熙乾隆、極其精華、而今則衰極矣、夫宋本之所以為精者、其以書必倩名人、刻必用巧手也、元則以理学盛行衰、而成嘉之際、以古学流行、宋之於両宋之舊刻、至清聖祖世宗、振歴世之餘烈、修汲古之学、於是有殿本有局本、之法乎歴世其不可及也、若夫明隆慶以降、清咸以下、則刻粗校漏、不一及随手而破、見其多脱葉錯簡而可徴其陋也、

早稲田大學圖書館

但方既朝鮮之書、小版則可大版則概不可、蓋以大版之原
於明本以下、又頗有韓人校改妄增、而小版之出於宋元舊刻也
古文四書考

○正平版論語集解、八凡之三面を、元々刻し古文舊
考云々

正平本論語、凡有三通、而其版則二、一通有坂浦道祐長士
重新金工鏤梓、正平甲辰五月吉日謹誌跋者、一通跋次行、
有学古神德楷法日下逸人貫書一行者、一通刪去二跋者
是也、先儒相傳、以單跋本為最先、学古本為其次、而無跋
本則以為最晚出者、余以為是齊東野人之言、蓋坐未多見

皇國之舊刊本耳、皇國舊刊本、卷末記孟古云々十二字者
多有之、以余觀之、如元應刊本產經、元亨刊本古文尚書、
皆有此記、則其人生起當在元應已前矣、從元應至正平、殆
四十年、則其人且已躋耄耋矣、余曰、正平論語、以孟古本
為最先出者、為是也、孟古本、卷第十末大名、論語譌作
論語、而單跋本以下、皆改論語、且多跋本墨版、今
收在帝室博物館、就而見之、挖去道跋之痕、歷々可
見、乃信可以決、書凡有三通、而其版實二、且孟古本、
先於單跋本、而無跋本、為晚出也云々
孟古本云々云々者、者字是費、とあるべきなるべし、其說

又為者字云々云々
神德、謂菅原道真、日下人、即是字隱文、當是孟始祖
菱公、菱氏語、無所載、恐是所剛
佚、而元應本產經、鋒勢贊勃揮霍、不可端倪、而正平
本則用筆凝重、頗多姿態、蓋用筆之輕重、即視其
年之早晚、与上跋所記合、殆謂然也、一曰、日下、謂京師、逸
人、隱逸人、係隱者名、費者所傳鈔、未知其孰是、然如以
日下為姓者、固已非矣、
○古文絕版年代以孟莊本為最古
經義考載載之年也

一 大成經 印刻正部三十八卷 聖考本記 礼綱本記
宗德經 神教經

一 三國通覽 并圖說

一 海國兵談

一 古歷便覽

一 長歷便覽

一 大学或問 延享五年

一 本佐録

一 給本太閤記 七編揃

一 給本朝鮮軍記

一 給本拾遺信長記

一 萬寶全書 神君御事跡 大猷院殿御事跡
德院殿御事跡 刑法

一 建武年中行事略解

一 聊氣水腫辨 内田外記

一 本邦帰命辨

一 人國記

一 天草軍記

一 東國太平記 仙文堂板木買上ノ上 改版改文と彫ル板
片カナ本 平カナ本

一 精忠義臣傳

一 非火葬論 保井真祐作 北板木ハ石塔等
買上 但板ストカ古川内之説

早稲田大學圖書館

○漢代の碑版や元明の刻書には鐫工の氏名を刻したものを稀なるものとなし而して唐宋の刻書にもまた多くは鐫工の氏名を刻したるも、元人を宋版の一部徴となすに足らざるべし、若し漢代にも鐫刻者自身の数名を刻したりとせば、元明にもまたかくの如きものあらん、元明にもまた書肆利を争うの為めに鐫刻者を用ひたるを殿版監刻と異なる刻者の名を冒すことを嘉し高を譲者為せすと云ふ富し化を後世に取らんとするにあらん、宋版にも第一刻者の名を

刻するを止めしことは前に述べたるが如しとなす

○西村兼文氏特一説を著はし異説のことを為すいと人ひなるべし、うんぬんこれあるべしとなす、いかつら

ぶ一説をなすもいと、人を欺むいたることなる、元文の書を世に問

したりごとくなるべし

案、今世所傳紅藕書屋本左氏傳、大抵有西村集右、嘗廣作三伝之表、

測民宮本左氏傳、大抵有西村集右、嘗廣作三伝之表、

延喜十三年、本文選、唐元祐二年本測的西京集、一巻尾

留大唐元祐二年秋九月谷鼎杭新興寺沈門光遠刊行、今在神田乃武氏家 是世所共一則予忘之

矣、明治二十年、清傳雲龍、得文甚於陳衡山所、蓋古代刻入於其墓表甚慶幸者中、欽差大臣黎莅南製版、兵部郎中傅雲龍作序、嘖々言其可信、且以為北魏世輯本流行之祖、而尚書不執其出於西村集之手、紙用古經故張、字標集字、寫經匠舊字、法字擬仰者也、蓋雖有其巧妙足以欺人者、而其紙墨之間、猶不難判其為偽也、況如此本、詳門雖設而常開、脫門安尚可謂之正義可據乎、嗚呼、學者信正、黎氏之爲學、聞於天下、其所為如此、余恐後之人、又為其所欺、故特記而辨之、

○前頁ニ云ヘル蘭氏本ト云フハ唐律疏義ヲ蘭氏ヲ作ヨウ所ノ之ヲ謂ヘル也、而シテ其ノ宋律ヲ蘭ヘルカモ云ヘリ、蓋シ英宗ノ時ノ刊ニ係ル歟、未詳ノモノ歟、

○唐律ヲ蘭ヘルノ左氏傳集解、孫奭、金紫陵花ニ中ルヲ以テ特ニ抽出シテ、こんもう宋刊ヲ、唐律ヲ蘭ヘルヲ以テ其ノ唐代ノ刊本ト為ス一ノ疑ヒヲ論ス、

○蘭律ノ ことゝのき 七又ハ 古ヘ云フ

廷律與而經構清、古者天子事七廟不祧者律、祧廟不律、

早稲田大學圖書館

東京帝國大學圖書館

廣時其制大壞、冊府元龜載、寶曆元年二月太常寺禮院
上言、玄宗廟諱准故事、祧遷後不當更諱、制可、故文宗
開成之刻于石、諱言祖太宗、不諱玄宗以上、蓋以其係於祧
廟也、降至宋氏、其制又壞、凡經名字皆諱之、故唐題文書
式所載一帝之廟諱、多者至五十餘字、禮部韻略、与廟諱
音同之字皆不收、周益公平園集、載文苑英華跋云、廟
諱未祧止當闕筆、而校正者、於賦中以商為殷、以洪為
弘、或位押韻、全篇隨之、至於唐諱及本朝諱、存改不定、
方知宋氏之書、尚有存唐諱者、而宋氏禮制之壞、可以見矣、
余按宋版之書、七廟以下之諱、或諱或不諱、而其間却有
諱不宜諱者、且古名卒哭乃諱、故生不諱、而宋版之書多
是俾諱、今上御名、士之有志於鑒衡者、猶依舊諱缺筆、以
期刻之先流、則必大失之矣、

○原本玉篇の完存せるもの一部
迄今尚未探索せざるは其の不幸の至なり、玉篇卷第十八
之後分を摸刻す、其の先唐本の
面目を知しむ曰く
原本玉篇卷十八後分一卷、係于大和國東大寺尊勝
院寄藏、明治甲戌流傳歸余手、其伦必今本今見存
四卷而其一則卷九自言部論字至幸部執字可惜

東京帝國大學圖書館

今不知所在但中間自冊部瓢字至欠部歟字六十八行藏
之于京都福井氏其二則卷十九水部自洽字至潦字
二十六行余悉之自護字至洗字藏于東大寺尊勝
院其三則卷二十七自糸部至索部完全四備自卷
首至纐字藏于山城國高山寺自紅字至卷尾藏于
近江國石山寺世所謂称石山本者即是其四則与石
山本同種之者一卷或人藏之然未知為其何部以為遺
憾而矣十八十九二卷則称東大寺馬道本此二卷原
是同種而此卷紙質精厚書法奇古亳不異他卷
相類定是隋唐間鈔本卷尾接軸處有四年十月
十三日云々馬道之十餘字而四字之上猶有墨痕消磨
不可读只未盡稍似雲字按本邦年號用雲寺者
屢有慶雲景雲即疑是當昔所記馬道寺
詳其為何人也時[illegible]年冬十月記後言識於
採古堂　柏木探古

○昨年十月葉山清紙京師上梓此書原本之
京山寺本系の印刷書体は前の[illegible]
[illegible]字を[illegible][illegible]大分違[illegible]
葉山の[illegible]を[illegible]
[illegible]

清四公使蔡蕙亭氏好古博雅之士也典物悍年謀訪求
古典随得随刻若古逸書者凡千冊中有玉篇二冊蓋
集古鈔本存各處者刻成見贈以示郭前半缺爲余偶
借覓高山寺所傳古文書獲卷子本玉篇一軸取而校
之則知郭前半全存合之爲完冊亦奇矣因付寺真更
上梓贈郭莊亦氏併行于世　時明治十六年十月
董山得能良仗識

○大須本摸刻倭名抄一卷を獲て彼国に齎らすこと
ありしに北条氏尾張の稿本を通邦に贈り之を尾州大須宝生院に
寄せ倭名抄殘篇と称する書尾
張通邦の題跋に詳なり今唯此其の首部を
抄するのみ
右倭名抄殘本者所得於尾張国大須宝生院也其
藏多古寺世人所知也嘗得古事記尾云執筆
賢琦俗腦二十九而不紀其年紀也竟以十年春通邦
新庵素其年紀拾壹之際忽尔得倭名抄數紙爛
脫在箱底大驚其奇特輒取梓本以雙對之條理
正修無訛外蓋源朝臣之舊本也其料紙者建武
八年二月延命延寿石燕等利錢日記同年四月白
柏子玉王注進正安元年七月内検目録文永二年

神宮皇學館大學図書館

淀四月左事の所集書并城田寺承仕金伽羅法師請
文及假名文古歴本也皆必要殆年数共為古写の
推紙既而覓蠹蝕残於庫底更得数匿而素校之所
得通前二十九紙乃自親縁宮令上木雖不得全書
原朝臣之舊面目畢竟可観矣〻

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館
早稲田大學圖書館

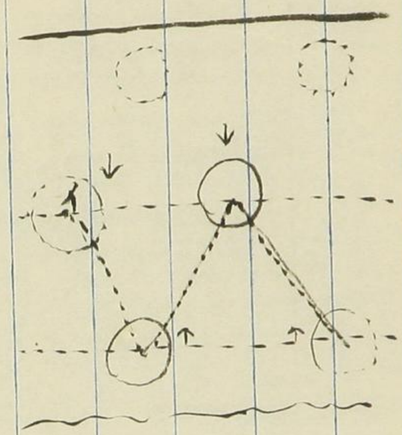
以下
3丁
白紙

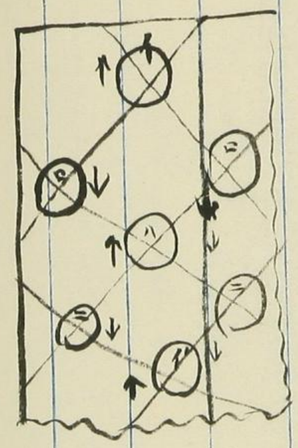
早稲田大學圖書館

○有光孫兵衛尉高俊と陽拍子法師の深厚利休物語
関係書類図説を説明せしめ報告を求めたる時
その次、次のごとくなる
第一図表現風を記き　左のごとくなる
清四郎を移して深厚利休の関係を基礎風新説とする
うゆしと雖も高麗三角形連続法を記号とする
ものと推積的連続法を用ゆるものとの二つおのおの
所説を前者を以て文も多しとす
高用新連続法を記号とする左図第一のごと
(イ)と(ロ)とのお花の資料を方向を異にする共資料図

早稲田大學圖書館

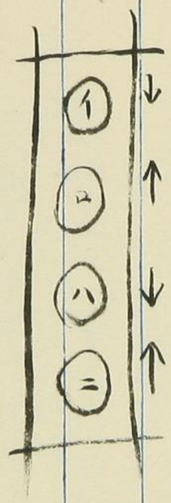
第一図





形の中心を連続する三角形の頂點を（すなわち）又第二図のごとく第一を二回循環する形状をなしたる一連続を完成したるものとす而して資料を蒐集（収）するに各部の資料をもって矢を以て示したるごとく各部の方向をとり其中心を図しこれを三角形連続の場合なる頂點とする

堆積四連続法を採用したるものを上堆積の状態をなすものとす



第二図のごとく各部の資料を順次一直線上に排列し其資料の中心を北直線上にあるごとくす

今我實験の事を述べんに我國の国業振興の事業の一部分を以て本会の使用する方法なる窒素肥料の図表をもって表示したる説明の節を以てもこれを一の

早稲田大學圖書館

仕上のことゝ孔ゝ

清人の仕張ゝ悉く大概ゝ（ゝ）
とゝの概念を知ることゝ（ゝ）用意を充たすの點を指ん
支障なくんば甘んじて更ゝ功績を出もゝの言ゝきこの如
し彼の風俗のおもむき見仕上方法の定全なることゝ並ま
如上の概念あるゝ困るものゝ不潤損あるゝ南方
婦容せる措ん多く問ふて異人の風又て異とする
とゝ知る向け輸出を目的とする傷物を後仕上
せる完全なるものゝ多くゝ行等の論ずべきゝ
論ずる目的北支のゝ留意点は由紀雷要
此しんの方を省き多のの割合をなすを以て

染色のことゝ孔ゝ　傷風和の染色の強弱試
てゝ更ゝ又考察を要すること甚だしく彼清人
傷風和を以て元服を亂造ゝゝ物はを以ひ
絶法を助生し又一度作り出る元服を扶傷汚濁著
用し雖ゝ多くは之を放棄し洗濯又ゝ洗
強をなすことゝなきゝゝ染色の強弱を互換
日光又暴露し副脱するゝんは可ゝとゝ試
又清国各地の傷風和の一小片をとゝ水浸し
染色の強弱を験せしゝ顔料の浸出し副出せさ
るゝの一ゝゝとゝ

早稲田大學圖書館

思ふ事なれども清人の侵略を恐れ例を設けるを降而
之逢と雖ども偏に遠国の弱きこゝろあり
生業の一時に潰壊せんことを恐るゝ因るしるべ
なん日本に曝さん事新に鎖国を開ひ久浸
しと雖ども変化なくして何れの国民も如しく
合邦するもなくして清人を猶風俗あり浸さは
剥脱するものなり一旦に行はるゝ所
徒に他業作業なき輩の輩出するのみにて国の
の財力を乏しく富を即日に後の憂あるを以て
貧力を大なるに見利益を捨てゝ既に再思せ

ゝ弘化なるものなん

○天保八年津藩皆川之賢縮恢の七本論語
集解に的決を求る所校されたるの巻首三手
紙新版と題す　北方英公の手寫と傳山公
古文石川之賢撰ふ下の序文と記き北方の来
歴を考る初出なん

（前異）我集藩有造館所蔵鈔本十巻為最古北本係我封
内大和古市名族廣瀬某家秘祐信公時献之鑒家り仲
元禄八年證記定為贈大改大臣菅公親蹟聚僅書定

早稲田大学図書館

白紙墨欄欄高七寸五分四寸廣一寸經文每行十一字注雙
行小字增一格獨第一卷注或增或否第六卷經注俱十二
格而第一卷用筆凝重頗多姿態二卷以下則纔遒
勁略　世所傳大安寺緣起　也篇末署手自書寫畢字
樣既得其正子孫可寶之矣相十八字通編施朱墨兩點
又揭音注及宋槧摺本異文間於欄外若紙背條記釋
文疏義并家說每卷皆有釋深尊貞和二年識語、
特述授受不苟之義亦六行九亦十卷尾並有極樂院
主順乘記云我神文道大祖天滿天神無擁護亦似為
菅公書者柿渋紙標黝渋木軸製造極樸古香

蕩然可掬深尊順乘皆未詳何人或曰南都元興
寺中有極樂院二釋疑其住持貞和二年南朝改元
正平距今天保八年凡四百九十二年菅公昌泰二年
拜右大臣在官三歲左遷大宰府昌泰二年距今九
百三十九年此編果出公手與否固非聚肇所能辨
要其紙質墨彩一距可以知為九百年外物也林信公
嘗齋到江戶時出示人吉田漢宦見而奇之私鈔四
上之活板刷印一百部以貽同好其所著集解考異
稱卷子本市野光彥正平校集解札記稱菅家
本皆指此也

早稲田大學圖書館
早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館
早稲田大學圖書館

○中井敬子大谷氏人まうれ、文字ちらしもあるまい
見事の名人と刻名を置う事の名道減ひあるこう
一番図書館の花印を軟ちび、ちく書物と作る体
へ○ふとふのむとふ(四月十二日)き与の花うん
ずてら親まる、笛を茅町の方に泊めれ、ちき岩
崎氏の意手まちと新家道心とふ探れのお
つてある探ひ内心ある、実きまうて新家とふ人
の感を好る浮度ひ方意心好のよる
いるの感であるまま、笛の探れのあるをん
尺二間の意底ようしくとふた於めきる

早稲田大學圖書館

を一人づつ造のまま身命もまぬかれ難く狭く
感じあり、……文を作るまでもあさましき感び
あるまうまぬかれ信じあるまうが、刺　を通ーしてそもと
事なびもあるとのまま、アイヌの生活をまくけるまとと
とまいのが、先きまは清水れ安の家の家の
前を通過れ家を必ずまとまれ家をまさんに
一事があるに、行感と第をとうまふ関係
うあるまうがんが開の意感びあること
小川のまもまうまう
第二段の換物を終まも文字の印をいうまう

段式の使まうきやを知しに家、琉球国文字
字の花印を使ふうまうまうまふ事び
文字を早稲田文庫の文字、村を銅、大き
さも略と手写文字の印のまうまう輪書に文
字手写文字のまうまう二重を書まうまう
極め一切を第の二方を使しに
第を風みる世界を無しのまうまを、手写文
字を新しまうまう彫似の印を使まうまを
彫字にまを一事を出しに手写文字の印
ニ二種あることを示さんに、第るに比較しん元

早稲田大学図書館

早稲田大學圖書館

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と宝物目録しにしたがひ過おし漏あるべき理なれ
ども数年の歳月を経て深山の古刻
図書を消滅し此其心を数服し給ふ、爾の
ことのうるさ陸奥の国の深山
あるとすれば、こんを田中吉兵衛、弥助を
お伽して自書く所の物語の自分の書
其の御書く此出て宮しにしたがひ、こん
を知るべし、こんを集めますますうるさく
骨うおれすし此
爾を又二巻の印影の印板を弥助也此大分紙
数のうるさい冊子を頂戴したこん爾のうるさ
さを思ふに一的無量の古物を多数の書物
を捜しもとめる印影を印板を弥助也此書
に其数を図言を深山にあるうるさ中うるさ
而るもいまもあるとしたこん、こんの書物を捜し
あるとうるさことを一々印刷の下に所記しもとめ
うら誰の時代にこんを出版さんあるとこと
ものこと誰のうるさをもつとこと捜る
ことも一方もこんを而るもの御書ますこん、唯
此時代にこんを長年を過おかけるまこん

こゝ、別に先生を主として教授をしようとも思ひますけれども、元々もと弾丸黒子集めた人の手伝を頼まうこゝろの様な思ひもしたこゝ此の二人の印書を見ることもこゝろの用ゐるこゝろの様な思ひもしたこゝ此の二人の印書をもとゝして其の前の義経四郎こゝ宮こゝ此数個の義書印をも一ツ二ツの外を悉く出て、左様に、言ふ所の用ゐる印をも悉くなくなれば話を御絶迄氏の事を海つたが為に御なぜう往年を尚を切をもとゝして大体集まるも町田久成を始め巨多の古印を蒐集録まを送んに、此の話し

大変を印譜考略（数百篇）に出てこゝろに数々思ひあるこゝ多しいことを書くが、元和大ほう流駅を蒐集なさる印を見らるを得るこゝろもあるや先づ自分を御紹介なさる身の上此度の新言高山英村と今一人　の高山英村と今一人　町田久成氏も三人迄今一人　町田久成氏を迎へ御言中　町田を御立ありて出て往つたが、あるひは先づ、こゝろ、こゝ見て見たい、どこうから、こゝを伝へ手を出を出す自分へ引きつけたこゝ言葉こゝろこゝ、私共もこゝのなめ御今之

早稲田大學圖書館

先年時代に於て其の高二十余貫の道
又卿も悔しとの仰せありしに依りて
高千円迄の者ひ申しあり云々
らんと思へ金を用ひて卿もの心に野毛の
古印を求めんとのことを支配人
しとて元治元年と年号乃ち卿氏
を元治元の不義なれども購ひ得たるは氏の義
の院こそ支配人を思ふ心なり
とて出でんとすと云ふ所に
第三又四月村西谷（高谷）を訪ふ夫所

早稲田大學圖書館

刻の印五枚を得たり、これを土佐の人の
云ふ人の西郷氏のひとりなり、こ
れらも先き紀州を出でて二十枚を獲たり
しそんなれば夫の印を来る
日高川村の手
悔しとのを少々も影る残念ながら
金ども未平印場（高知市中の人名）を刻し
ものを紹介ことを出でて
自分を本平の刻を所望ぬ
の刻と芙蓉の刻とをの

早稲田大學圖書館

愉快なるまでもなく、なほ又書不ウ孫
義しんなりとの印象を抱くことを自慢して
居れば、それを曉来振り四冊本ひあ
るとうるく董其昌の序もあるとふ、こんな
文所でも実に七部してなるものがえへ、某
法元人の部をなるのを要に二冊ひ本一を缺
けたるとなるが、こんなの部を於ても此をを
義しんなる推一の人にを讃をもなるた
第を出に熟心な文所歴代の細印の沉革
をとるに板あるを調べてなるを明を

紙異とした第のもい写を京摩しに如果を此
の著まで生まる積り此をとなる
第を初為国であるこの時を陸しう所を
るとを国を書産を写して二的百年ひとるい
るくの弱点をなるに此
を改つに（四月十三日板主第）
○漢方醫術の後生を無の此頃偽裏論を存る刷しに実
敬の意を表しに事があるとふことをなるとえに
とるなる、此頃北海道の石刷の拓をを帆を
獲に、るるくを流を時者へるるが、医術史の

早稲田大學圖書館

材料をもとめさせられたことであろう、国書数の講へられたと
其の叙の末文を物したる老の書面を知るの便りと見る
（前略）雲州浜戸郡杵築郷天日隅宮側恭仰神
徳照蓋之於永世云
天保六年乙未春三月平安中川故其徳丸拜
秘写首数白

筆者は田辺高山人である
○支那の戦史と遺蹟千里ならず話題が戦後の戦場を
形容して書いてある、未だ例の支那流の誇張詞であ
らうと思はれるが、なほ大の戦争の震兵の

遺蹟二十里ならず、支那の
形容詞のうまくあつてまさる観戦家をして
驚かすの勢もこんな関係に出るのである
敵の余りに猛烈にして進ける際支も困つ
たのも大きな怪物のやうな活寒報があつたと
見えて動もすれば寒さある所の敵を元祖したと
一方にも力一杯、迫一杯の進駐けた我兵も困る
のも同じく活寒の報の上に立つて
業報があつたと見えて之に動る所の寒さ
以て遺蹟千里の光景を推すべきである

○満洲うまれなる江軍醫の語を聴きて満洲うまれ肺炎
うまれの流行を脚氣うまれの流行なりと、満洲じゅう黄
疸患者大、えうなる馬来熱ひまうまれ肺炎を誘起
するものあり、流行を整理する所を捷ぐなり
敵を狙撃するうち此後屍ちてうまれ脚氣
患者うまれうまれ、又曰く板氣うまれ胸部腹部等
を暫時うまれうまれい、之れを為し畜産の弟の戦
闘うまれ敵を倒すうまれい、うまれ板分を主財を
考えるの弟の如しして財産をするこうひるこに
○王右軍の字を集めて右軍の若いし此若経を刻
し此拓本小稿れ以て家に伝うる為たるべし、余須
臾一字を獲ること例の如く帰り来たれ
ば又恰恭幸したるを、左右大瀾の叙を初めて
此の拓本の由来を傳へんと
法古齋主木壽顔堂閑地任授書多年近
得之浅草文庫大妻乃請玉置環齋就王右軍
法書集字以勒於石又請題額於森龍溪翁
使余記其事昔唐立城法書式美作筆雖柳
公權不能盡其用齋謂之若非王右軍不能
法古齋主人所知也乃右軍每世光將就其之

今刻板此経弘有縁也　戊寅首夏　蔚山大僧侶

是れ文墨の一住所、ここに和して以て伝ふ

○早稲田大学の外征野球団の写真巻に後の歌を作ることを乞ふ其の首に掲げ来る所の歌を漫ぜんが為に之を掲ぐ

外征野球団の歌

（二）

駿足ならば小亦俺
あたの至て無ならば
何俺の脳、幸駿天の足

心義を持て西路を走る
氣、万象を呑んで力山を拔く
心を練つて石打の技
野球の効は実に多し
一旦事あらば天下何ぞ難からん
日本一霸を呼ぶ無敵の一団
雲球を挺押面して
前星の後儒折伏す
世界霸たらん亜細亞の一団

早稲田大学図書館

（三）

岡山にあれば人山水
を愛する精神あるべし
前項の信心脱の劇
朝々鍛錬ふ
義、九無と重ね操、松とめく
朝々旬の四季花
月見社の冠もこんなおうん
一生涯を三ツ巴のんや
いとえよ日本男児の本領

早稲田大学図書館

結婚式を元禄の風
いとえよ日本男児の本領

○清美坊一等卒の紀念日に社会と関係
りしの紀念祭を挙げた。余も山共の奇縁を
受けたが、前回と時期が
を惜む、元々霞浦海軍
うう

雲あり去れば秀々迷ひ
ふもうくば陸も霧ふ

早稲田大学図書館

去のかなしみ忘るゝ

光りのとけきやまにゐふ

やまもゝまゝの朝ぼらけ

梅の笑まぬ人やある

○近ごろ長崎の向こうに清国の思つきで満洲軍く六万死する筋をあを集して、その書集い候体をうつくしあるが中に六万の軍勢ヤーキモヒカラ、ゝ偏面七二出の品もそんことを礼をあるゝゝもつ清国七二出の品あを作るとゝり出

しゝ、えゝ閑し清国ゝ清国ゝ

う載のゝゝ

日本橋ゝ傳馬所三百二者紀の筋ゝ長幸山西ひ軍人ゝ六万紀用のヤーキモの筋あを長都くゝゝいゝ品をこゝ無ゝ買ひゝ出うけゝ長ゝあつゝ七一本の代価ゝ六銭ゝ言あゝゝ買あゝゝ一ゝ本ゝ乱ゝ買けゝゝ値切り初めゝ人ハ流れ駆引ゝ巧いゝゝ芝西光ゝゝ買けゝゝかゝ思くば他の筋ゝゝは出ゝ出ゝ出ゝ

ゝが、ヤーキモゝゝ買けゝゝ大の不去、ゝ人へゝ

早稲田大學圖書館

御覧じる、言葉とそのうら、意者義の意味とす

早稲田大學圖書館

明り出して載せしを見るに正宝寺書院
と書きしなるべし此寺を常陸の太田(久慈郡塩井村)の寺ひ(但塩谷郡の誤か)の寺なりしと考へ
るなり(此書正宝寺にも現存せこの年
比にあることとうたふ、云ふ所も全く書
目の編んなるを此の墨書の文字しか全く
見えもしない、あるいは桃山の此の文の間
あとの文字を見て左の如く記すべきなり
所紀しも脱漏を補ふなり
芙蓉萬秀山正宝寺 前又 桜上の下野州

東京帝国大学図書館

足利庄学校事位文安六年己巳六月晦洛陽傳延
愚夏之と云ふ又享保文化丙子年七月狩谷
棭斎近藤守重の二人手沢の数文あり記事を
庠主ふ傳延周鼎考訂の資とし云報
國の筆を納むる由也

一毛詩正義　荒木
宋版なるも字数格改あるしかれども北宋本と
し上頭標題なる足利学校の旧用也と斜
めに大書しあるも　寄附者上杉憲実の

自筆なるべし

一毛詩　古写本
外題周詩と云ふ巻数二十年三月書董席
鈍子喜松野釋菜と云ふ尾に書す

一春軒周易傳
慶安五年の写本　四巻全書写伝文所の
旧本也　此書元文所伝供し

ひとも我邦に存するものなり

一 尺度権衡　古写本

論語の異名なること　山森宇宙の考説あることと云へども殆ども未の用なること鉛槧くくもて開く能はず但に拙きまの論なるなり

一 周易王弼注　鈔本　五冊

外題「説心易」とあること　表紙を換ず

また古唐一紙を貼ず細こう[illegible]
天の氏永亨九年のものなり　[illegible]代亦
比ぶるを推ずべし

一 聖学心法　朝鮮版　大本

朝鮮本も或稀なるべし　[illegible]
才一を推ず　紙を日本の書ずるに似て
肉あるもの　楷体豊肥なる
也　永楽七年の序あること　勝康文庫
の蔵印を捺す

早稲田大学図書館

一左抄　古写本　十八冊

巻頭書目名の下に「三要集」の三字あるも
庫主三要の自銘本歟冒巻の冒
頭に「野之國学」の印あるも集古十種の
印の部に載せたる之れを模したる
ものなり

一尚書正義　宋版　八冊

毋氏裏寛寿道とあるも吉体清蔵　版様亦鮮
朝也

一周易注疏

古体宋版にて書きたるものなれども第七冊
和泉のごとし　版式も堅長にして撰度
ろ也　宋版の翻刻歟　尚考へべし

一大学衍義

宋端平元年ノ版

以上五冊の書も皆唐本を海列したるものなれば
共紙行うあるも丈り大略を産人氏　朝鮮活字とも

早稲田大學圖書館

〻奇〻ふし変せる三寶の印行しなと稱せらるる如觀
の跋、家康の三寶を崇敬せるを性紀の記、綱
法師をして印行せる朝鮮本の十八史略、朝鮮整
版の十九史略、文政年間の古文孝經、上杉
家印の文位の沈寄進せる時版の版の諸書なども
あり

典籍〻〻を世俗切り上げて聖帝あり年しるる聖像のこ
とを一種せん、この聖像をくしく經籍の中に存せるを以
くこれ果して記るの像なるうや又四〻記るの像なるや

古文の物なる古なる古なる合ハさるべし物と而も近世
勝西の文なる書を基し記るの像なることを信ずあ
れども四的なる古法なる物なる合りなるものを断せんなる
基し古物なる木像を見るうる畫帳を掲げなる
なることなる者を載せる故、なる而も足利なる掲なる後
もうなる西像を掲げしこと永正六年宗長紀行の
なるもあれ此の木像を其後の作なること疑なる
なる脱角又なる記き史
なる出せん

足利の聖像ハ木片を寄せる能み内面室泥ふれ

早稲田大學圖書館

紙あて裏ハ脇文字といふ偽作歟を備ふる文
字を裏のをゆくし之をり点の照し後面を反映せし
め読み得しものハ次のごし

為毋妙口為道方為口道法

干時侍講筵二位従八百餘人口口口妻口口女　都良香

南瞻部州大日本口口州、、元慶元丁酉冬至館開、

、、、、、、、、、、、、、、、、中華人権大僧都、、、、、

、、、、、、、、、、、、、口之形之因家弁三権律師、、、、

、、、、、、、、、干時能化江左人日新字、、、、、、、

、、執権長尾但馬守憲長也、、、、、、、、、、

上献三宝、、、、、、、、、、、、、、天文三年

正月甲申之日初刻之明四年秋八月上丁

忘筆矣

於櫻下小路上

同其妻妙西以漆桶一个令力潤色之紫陽之一木僧以四百

字之孔方

為硯水

之人名俗人氏天文三年某氏女妻と云ふ氏氏等の件

義の名色新ス聖像を刻し彩校を納めしもの

題銘を首尾を為(ル)て一部を作るものなり

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

猶之「都良香、文芸之下酉之「酉之亞」の十字あるを、異本に書作せ
の誤異なるを一見後人のかく書せるを知ること
大八洲記に記するを本邦祭祀、多祭事名日、故嘉長以上丁
為先聖忌日、故云上丁忌事、猶言上丁祭事也と

○餞の寺も名々の古寺記を見るに四天弘法師日傳義大師日こと多
四天仲寺と和記逸文に記すこと有るを寺院名只比僧院と記れ
事多く書上げ記を見る侍ること一生の鈔本あるを論
説志記と題する四冊を記録を附する和字を以て
録する所為の跡を知る古図二折あるを世

を別項に示す事本書下を紀すし北寺の名も墨書
するを又書する所も史学と治乱なるべきもの、そのく
の紀く侍為るを事と云為物なるべきもの、そのく
ふ侍し俗説の異を見るべきこと喜
る事の如し
又北寺の西古墳下にも為極る動宮祭事の花を多く
花を見る所に古墳二個を
為見しこれを為極し得る者の中に堀井戸あり
う北の古墳、新と為掘出を伊勢の神宮し其の跡果
を記し侍る報告書三冊にも侍る北の殺名

早稲田大學圖書館

又記するに伝ふる古墳と甲乙二個あり其大さ甲は直
径四丈乙は直径七丈高さ一丈六尺とあり博井の
研究しる所に伝ふるのこと千三百六十年前のものなる
うんと云ふ乃ち右の報告中の記事に関する一節を
抄出す

垂仁天皇以後廣仁天皇に至る間紀元六百六十三年
ここに乃ち三十年頃のものなりと云ふ
北莊の墳墓は和り邑侯なる個あるを以
て元来は貴族の住居せし頃の遺墓を考へら
るるものなり崇神天皇四十八年

（紀元六百一年）豊城入彦命をして東を治めし
む是上毛野の君の祖なりとあり此の墳墓
墓なるべし此の所を距る遠からざる

早稲田大學圖書館

一古筆書簡

義明、義宣、氏春、氏行、氏重、氏滿、政氏、晴氏、基氏、政能、景房、景信、景綱、景胤、實胤、能胤、晴胤、千胤、持政、豐守、當長、正綱、長親、持之、賴種、滿兼、重仲、助忠、龍王、愛松王、梅千代王丸、伊勢丸、左衞門尉朝氏、出雲守慶久、長成、上杉道昌、上杉師有、上杉道合、道繁、信綱、右京大夫持國、高廣、長基等。

一古筆書簡　拾五卷

佐渡守爲基、佐渡守爲盛、氏春、僧定尊、前下野守持政、平豐守、周防守、忠家、義明、政氏、晴氏、愛松王、梅千代王丸、平千手丸、佐野盛綱、鶴若丸、平氏行、沙彌信玄、信濃守成繁、國廣、不動壽丸、小池晴實、景隆、前下野守光藤、但馬守能胤、芳春院周興、右馬頭成主、平政胤、大貫國高、源政能、兵庫太夫定胤、大炊助直綱、平房清、恭德、芳春院松嶺、式部大輔持家、大伴成兼、大炊助政助、定基、前讃岐守利宣、源氏幸、伊勢丸、平晴胤、助忠、肥前守明資、助憲、閑間家勝、長尾顯長、泰久、前駿河守重仲、小室久右衞門、僧良濟、僧弘儀、正光住侶義興、藤原弘綱、二階堂成行、近江守行胤、岩崎吉忠、僧弘勝、但馬守景長、

右下野國鑁阿寺及ヒ支院等文書拾五卷（三百廿通 内寫四通）明治十八年八月編集副長官重野安繹命ヲ奉シテ關東六縣ヲ巡リ古文書ヲ採訪スルノ時之ヲ覽ル頗ル事蹟ヲ徵スヘシ乃チ借テ歸リ一本ヲ摸シテ官庫ニ藏ス因テ原本ハ襯裝シテ本主ニ還付シ永世之ヲ珍藏セシム

明治十九年九月

和田山學圖書館

一古文書

内閣修史局

貳百通

松平肥後守、酒井左衞門尉、阿部豐後守、堀田相模守、稻葉丹後守、松平伊豆守、井上河內守、松平右京太夫、戸田山城守、秋元但馬守、松平右近將監、久世大和守、本多中務大輔、水野和泉守、板倉佐渡守、戸田長門守、戸田大炊守、田沼主殿頭、西尾隱岐守、大久保佐渡守、稻垣對馬守、戸田淡路守、加藤越中守、土井丹後守、大久保山城守、本多伊豫守、松平彈正忠、酒井石見守、水野壹岐守、水野豐後守、小出信濃守、本庄安藝守、堀田加賀守、大澤下總守、本多伯耆守、井上大和守、小堀和泉守、畠山二郎四郎、

和田山學圖書館

秋田大學圖書館

○延和[illegible]年義人の遺[illegible]を延和二の校の図書を[illegible]
[illegible]秋写為八の作る[illegible]図也（[illegible]延和[illegible]我
[illegible]）と[illegible]
[illegible]義人の[illegible]校[illegible]
加[illegible]出す校[illegible]以[illegible]
[illegible]
[illegible]北[illegible]の[illegible]図書を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋田大學圖書館

北の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

早稲田大學圖書館

[illegible]

○此の長方の[illegible]書[illegible]瓶を拵[illegible]ることを[illegible]さえ此のを[illegible]あるに因[illegible]を[illegible]舊[illegible]二間四方ほどの[illegible]中[illegible]所[illegible]棚を作[illegible]陳列してあるに[illegible]の位[illegible]を[illegible]因[illegible]くの[illegible]の[illegible]の[illegible]の

之載ることなし、されど今この元版にて所要なる部
書の間違を抑庵隠者より頂戴せるの文を
写し、数度これを校合せしこと多し
されど此の二書ともに抑庵隠者の切なる
手紙なるべし

一孟子注疏　十四冊　鈔本　巻首欠　奥に天輔五年
末巻に国子監の題跋あり　とあり
この校所は長享二年鈔本孟子注疏解経校之
今行本異同不少此鈔最為善本今偶之使
伊澤氏對校之伊澤氏作函余裝褫以還之文化丙
子秋九月御書物奉行近藤守重識

□□

一宋版文選六臣注　二十冊
毎巻の首尾に金澤文庫の墨印あり　又書写
校寄延永弘三年庚申六月吉日　平氏政朝臣
とあるに　福寿庵穂の印を捺す　蓋し氏政の
号なるべし自号なるべし　各巻悉く自写なる
ものゆゑ九筆にて四筆なることの多けれども

早稲田大學圖書館

華の印と云う所謂北条家の庫の印と
しるしたる所のものの二寸三分四方位の角印を
朱印を以て九華一の紙背の内を「二十一歳百
日之間西之海一十六日時書之」と書けるもあり
（中八丈）又陽明文庫九華行年六十一歳之時欲赴
于郷里、過於、大守氏康氏、父子藤三郎、
後述物之吹聴之又請再往于海内矣と書もあり
もあり又北条氏の後に三嶋の市もあり加
墨跡「三要」とあるも、家の主流なる宋版の

もなし宋槧中の巨擘とすべきものなり、背
に書もあり巻頭に各頁裏折しあ
り任意なる丈書を附し本書精義
鐫刻鮮明宋刻中なれも特の名と
小童子

一古文孝経　古写本　三冊

元所謂の近衛本と称する系本なり太宰
春台の孝経を刊せし西を近衛本の
ものとなすもの也

昭和大学図書館
神宮皇學館大學圖書館

北方先生羅叟の遺命中の舊藏を存ず、[illegible]古書の多くは嶋田翰北の本の首尾なく他の本を寄せ寄せ寄する為、後人の沙汰なきも、翰を之れを送するはなく行者又入れて天井へ押し込めつるをしらず遂に焼失せんとする事なり

一冊ずつ[illegible]本の門を潜りて[illegible]

一 論語義疏 古鈔本 十冊

えんを支那にうまれい書籍が日本に渡る迄の事

私の一ひあり 支那人の風を学ぶを学ぶ

高麗書の中に入るを学ぶが、うみを北書を学ぶ

ゆえしたのをうまれ寛延年間根本伯修の刊

行したのを入れたのある 根本の刊行したるを論

北の是刊本を原とする疏の入る方が原

本ともつてうまれ、原本を正文のある直なる疏が

早稲田大學圖書館

入れ日ヒあるゝ刊ちうと十三経の注疏を倣つたる章
の修る疏を一束しかれて居る、それで居て其後
年霜の伝記なのを得たいと云ふ故高ぶあり
ひと前年清水谷侯藤原保昌をさしく後
段々を高出し数の旅宅と遠あれこんと
言をもひとことの長ある藤氏もひとく北方を無
洲しなを又後の方私の方は一整の写
北方を見ようと云ふ意を以て
ひとてまる、北方を端を迂利の方校の朱印轟
文庫の朱印を持つてゐる睦子と墨書の

署名のあるこれを庫之市十世墓松和尚の方
ひある

一南華真経　十二冊　七巻本

此書を庫之市和尚と書す　又市空光彦の印
あるうしことを左の奥書を知る

文化十三丙子秋九月
失脱者六本以印本補之
補之　江戸豊嶋所
市野光彦

早稲田大学図書館

一巾箱本周禮鄭氏注　宋版　十二卷
二冊

[illegible]
足利学校図書中の逸物なり　注疏諸
本を集めたるもの　元版の礼記あり　周易
[illegible]
雜[illegible]　元版　[illegible]
竪三寸、解本にて図のごとく各頁ひき
延ばし、横恰も微々たれど、各章を重
言重義を附し既を[illegible]の細字にて掲
[illegible]

△以下前に戻り図書経部のこと

早稲田大學圖書館

○足利学校にて易解義物の冊、并に断易宮本一冊
[illegible]を二大秘書とす、易解義あり[illegible]
栗系信元[illegible]柳庵隨筆[illegible]
[illegible]

王注の俗義を図字にて書したるもの　文政十四年
一月廿一日始之十一月廿七日終之　嘉四年[illegible]
[illegible]の二篇字の印を捺す、其の俗義中に[illegible]
[illegible]を卦爻[illegible]論[illegible]多く俗名[illegible]氏[illegible]の
[illegible]也　需の上六に俗名を[illegible]我師を[illegible]
禪と云[illegible]其師を[illegible]義[illegible]と云[illegible]其[illegible]の注

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

えたりき我易を傳うけきり尚書は洪範天下の乱を占ふは需の上六あらざる有こと不連
衆三人未云て自爾以来未見其可否其後重氏
のうちを御後せとうと云ハんなりと又其後重氏
出頭の時足利入殿と易を講する時お氏の時の筮
のまを汐決なりと其上占筮節を会せるこの
し其ハ重氏出時の兆卦三人不連来て重氏を扶
なりと第ハ美濃の土岐を養せられた雪の下殿
と云て一人なり聖道ていあつなると又の弟ハ傍ら
一人有て又重氏一の兆か美濃あつなると其ハ俗

人以上三人未て重氏を扶けて重氏つてあんでた
えんなりうと貞去なりと今まそれるなりと
御なり易を信じて蓍をきらばまのまをある
まいと

因まる成氏或を云ふ氏とうと又さつり氏又さつ氏
一定なりなり、なりなりこと云重氏とまんば有云氏と
称せしこと時なりなりなり

○足利学校を國学の遺物なりと云ふ士時宜
の氏塾となりなりのなり、未だ何んなる物なるや
而して上世の國学の遺物なりなりと

早稲田大學圖書館

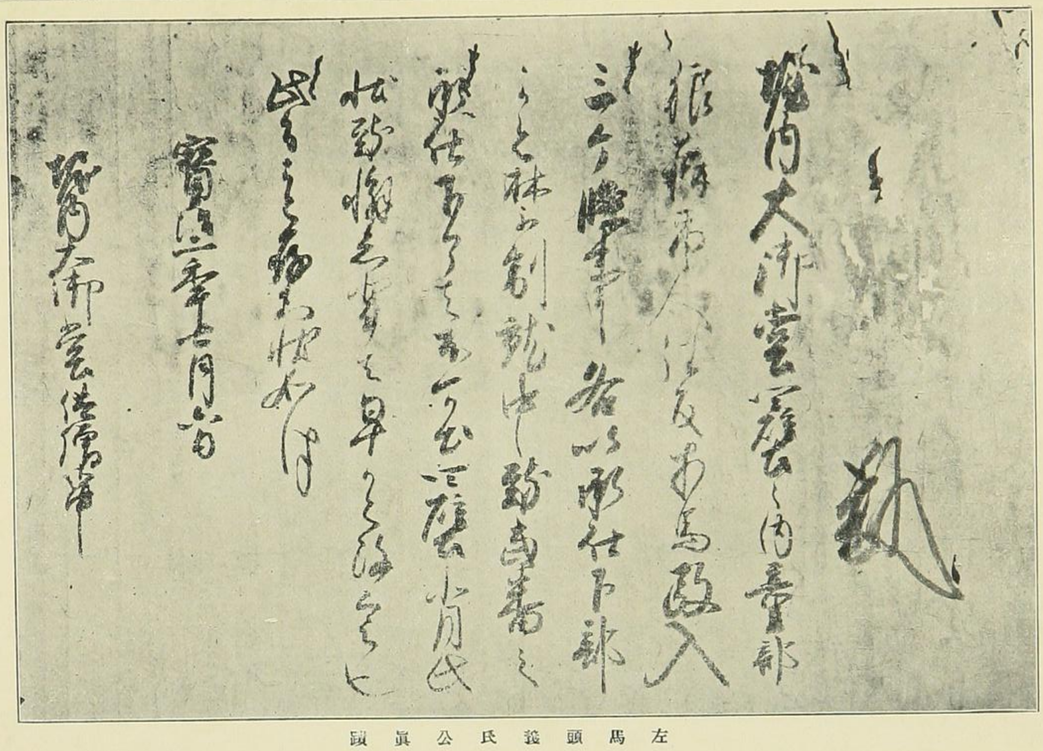
集古十種印章の部に足利学校の印章「野の国学」
と刻する印あを載せたるを以て流布せり、或は
又足利の学校も義満の奥書に「下野州足利庄
学校常住、文安六年三月晦、洛陽僧侶の筆墨
置之」とあるを引き因て学校を足利
とせるなり

○足利学校創立の人臣注文是（宋版）に附福寿庵稿
の朱印を捺すこと不得る北条氏の御印なるを
基とせり、又考し世俗の立注書に浜なるを摺り
うとせるも此の書を既に亡ぜしなり也

○鋭阿寺に蔵する多くの古文書の中に足利義氏の古文
書あり、これを此の寺に伝しと堀内御屋敷となり、又
寺の古像記に「御堀内信濃掃部佛屋」とあり、元和の
こんを山〜〜足利氏の殺例に此の寺を建たとあり、こ
れを所伝する材料なり、乃ち堀の内を
ほりうちと石碑の掃内とあるも同じ、今た
る古文書の字を以て保ちて其文書を指書すること
なし

堀内大御屋、四聖之内、童部狩猟、市人往反、牛馬入、三個条
事谷以承仕下部、可令禁制、就中寺畠之承仕下部者、不可

早稲田大学図書館



左馬頭義氏公眞蹟

早稲田大學圖書館

[illegible]という[illegible]相違することなきもの[illegible]
う、こんも仏光を寄する一同[illegible]ひあるか、永
年間の鋭の寺領を[illegible]
[illegible]の寺我の位地
[illegible]永承天正頃の
地図と[illegible]べきこと[illegible]地情
を[illegible]、位[illegible]
位地[illegible]天正[illegible]
[illegible]ひあること
[illegible]

○いつの[illegible]
[illegible]

足利駿の京、岩井村[illegible]境[illegible]字学校地[illegible]
字我の位地[illegible]北地[illegible]大方[illegible]
川[illegible]、[illegible]命目の[illegible]
[illegible]国学の文字[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]又足利[illegible]
利の個の御、[illegible]
く流[illegible]
年[illegible]十
[illegible]
[illegible]

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

續々凡八所餘、新所刻を立て」云々とあるも、[illegible]
校を稽しかの[illegible]北氏[illegible]
○前に立江山世續寺法華を以て又慈を招うしことを
云くも、偖て鳴田鞆の古文四書を取て考るに恰
も北方に云ふ所し且つ世續寺縁をもくしん
のみ〳〵云くも

又有芝長丁未上杉景勝臣直江山城守世倫、於安法寺
就是書、用銅雕活字所刷印者、首有目録、題云、茶
陵前進士陳仁子校補、卷尾有紹興跋文、蓋足利之書
欠目録、故依元陳氏本補之、又從紹興刻本採録其跋殊

失其舊觀、上杉氏有黄善夫刻史記、亦係世倫舊收、觀
其目録後木記、刻裁粘用之彭寅翁刻本本末、其無疑
与斯書為同一法、恐是亦世倫所刻裁增入、紹興本以下
三版四通皆就五臣本附善注者、夫崇賢所原之本、与開
元所注之書、其淵源未嘗相同也、而崇賢則析為六十卷
開元則其注与淳句異同、視之於善注、雖猶虎狗風雅
似其卷帙、未失舊統之舊、夫淳流既不相同也、淳句與
同因亦不相同也、而其標淳句下注、亦未嘗不相異、況
今其之異、二者全相懸絶、後人欲引此附彼、引彼附此
余徒見其同枘鉏入也

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

花鳥幔幕

箱書曰 此花鳥幔幕者奈足利尊氏公御陳中之貝則異域到來之織物也

文祿壬元壬辰年

學頭盛範

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

早稲田大學圖書館

明治三十八年四月一日

日本文庫協會主催

第二回圖書展覽會目錄

日本文庫協會

國分文庫

早稲田大學圖書館

例言

一本目錄ハ明治卅八年四月一日帝國圖書館内ニ開會セル日本文庫協會主催第二回圖書展覽會出陳ノ圖書ヲ記載ス

一會場ノ都合ニ由リ朝鮮本ヲ第一類トシ慶長並ニ其以前ノ本邦刻本ヲ第二類トシ金平本類ヲ第三類トセリ

一刊行年代ノ明確ナルモノハ年代順ニ排列シ刊年不明ノモノ並ニ寫本ハ書名ノ五十音順ニ排列セリ

一朝鮮本ノ刊行年代ハ總テ支那ノ年號ヲ用ヰテ一致ヲ計レリ

一冊數ハ總テ出陳ノ實數ヲ擧ゲタリ故ニ全部ナルモアリ一部分ナルモアリ又缺本ナルモアリト知ルベシ

一本目錄ノ編纂ハ一ニ各出品者ノ通告箋ニ據リシモノナレバ自ラ記載事項ノ統一ヲ缺ケル點尠カラズ且ツ現品到著前ノ事ニ屬シ對校訂正ノ便ヲ得ザリシハ編者ノ甚ダ遺憾トスル所ナリ

一其他匆卒ノ際編者ノ不注意ニ由リ多少ノ誤脫ヲ生ジタルヤモ測リ難シ看者之ヲ恕セヨ

目錄

第一類　朝鮮本

甲　刊本

イ　刊年明確の部（年代順）

所藏者（以下倣之）

阿毗達磨大毗婆沙論 元至正年中刊 一卷　帝國圖書館
天運紹統 漁虛子蹈仙編 明永樂四年刊 二冊　文學博士 木村正辭氏
大學衍義 宋眞德秀撰 明宣德九年活版 十五冊　東京帝國大學附屬圖書館
三綱行實忠臣圖 明宣德九年刊 一冊　林泰輔氏
小學集成 明正統元年刊 六冊　帝國圖書館
樊川外集夾註 明正統五年刊 一冊　大橋圖書館
龍飛御天歌 鄭麟趾等撰 明正統十年刊 十冊ノ内二冊　文學博士 金澤庄三郎氏
高麗史 鄭麟趾等奉敎撰 明景泰元年刊 七十三冊　名古屋 三浦兼助氏
重修政和經史證類備用本草 明成化四年重刊 廿五冊ノ内二冊　文學博士 木村正辭氏
佛祖通載 宋釋念常撰 明成化八年刊 十冊　今泉雄作氏
陶淵明集 明成化十九年刊 一冊　文學博士 大槻文彥氏
黃檗山斷際禪師傳心法要（宛陵錄）明成化十九年刊 合一冊　早稻田大學圖書館
妙法蓮華經 明成化年中刊 一冊　帝國圖書館
李太白詩文集 明正德元年刊 十冊　仝　上
藝文類聚 明正德十年活版 四十五冊ノ内二冊　文學博士 木村正辭氏
二倫行實圖 金安國撰 明正德十三年刊 一冊　林泰輔氏
近世錄 明正德十四年刊 四冊　帝國圖書館
異端辯正 明魯陵撰 嘉靖自五年至三十年刊 三冊　菊池三九郎氏
儷語類編 明趙仁奎撰 嘉靖十二年刊 二十冊　帝國圖書館
佛頂心陀羅尼經 諺文入 明嘉靖二十年刊 一冊　仝　上
求仁錄 李彥迪撰 明嘉靖二十九年刊 四冊　狩野亨吉氏
禮記集說 元陳澔撰 明嘉靖卅九年刊 八冊　帝國圖書館
家禮大全 明嘉靖四十二年刊 一冊　仝　上
程氏遺書外書分類 明嘉靖四十三年刊 八冊　狩野亨吉氏
延平問答 宋朱熹編 明嘉靖四十五年刊 二冊　帝國圖書館
資治通鑑綱目附集覽發明 明嘉靖年中刊 八十冊　島田鈞一氏
文章軌範 明嘉靖年中刊 二冊　帝國圖書館
醫家必用 孫應奎撰 明嘉靖年中刊 一冊　大野豐太氏
新增類合 明萬曆四年刊 一冊　文學博士 木村正辭氏
新增類合 明萬曆四年刊 三冊　黑川眞道氏
新增類合 明萬曆四年刊 二冊　文學博士 白鳥庫吉氏
松齋詩集 李堣撰 明萬曆十一年刊 合一冊　龜谷行氏

五音集韻 韓道昭撰 十冊 明萬曆十七年刊 帝國圖書館
己卯錄 申翌敬撰 一冊 明萬曆十一年刊 林泰輔氏
御製禮疑類輯 朴聖源編 十五冊 明崇禎三年刊 帝國圖書館
同春堂先生集 宋浚吉撰 十八冊 明崇禎三年刊 仝 上
玉溪集 明崇禎六年刊 六冊 學習院圖書館
東州先生集 李敏求撰 十三冊 明崇禎十二年刊 東京帝國大學附屬圖書館
坡谷遺稿 忠簡公撰 一冊 明崇禎十二年刊 大野豐太氏
麗史提綱 俞棨撰 二十冊 明崇禎年間刊 東京帝國大學附屬圖書館
一松先生文集 沈喜壽撰 四冊 明永曆三年刊 仝 上
妙法蓮華經卷第一 一冊 清康熙七年刊 山中笑氏
柏潭先生文集 具鳳齡撰 六冊 清康熙九年刊 東京帝國大學附屬圖書館
東國文獻備考 洪凰漢等奉敎編 清乾隆三十五年刊歟 四十冊 仝 上
八歲兒 清乾隆四十二年刊 一冊 文學博士金澤庄三郎氏
一峯集 趙顯期撰 七冊 清乾隆四十八年刊 東京帝國大學附屬圖書館
弘文館志 李魯春等奉敎編 清乾隆四十九年活版 一冊 仝 上
大典通編 金致仁等奉敎撰 清乾隆五十年刊 一冊(缺本) 林泰輔氏
林忠愍公實記 清乾隆五十六年活版 二冊 仝 上
李忠武公全書 李舜臣撰 清乾隆六十年活版 八冊 東京帝國大學附屬圖書館
李忠武公全書 李舜臣撰 清乾隆六十年活版 八冊 市村瓚次郎氏
東醫寶鑑 許浚奉敎撰 清嘉慶十九年重刊 二十五冊 東京帝國大學附屬圖書館

國朝寶鑑 金尙喆等撰 清道光二十八年刊歟 廿六冊 文學博士白鳥庫吉氏
圭齋遺稿 南秉哲撰 三冊 清同治三年刊 東京帝國大學附屬圖書館
六典條例 洪鍾序等撰 八冊(缺本) 清同治五年刊 岡田正之氏
雲石遺稿 趙雲石撰 十冊 清同治七年刊 名古屋三浦兼助氏
兩銓便攷 宋第一、二 吏銓兵銓、南秉吉等編 清同治九年 二冊 東京帝國大學附屬圖書館
雲石遺稿 趙雲石撰 十冊 清同治七年刊 仝 上
古歡堂收草 姜璟撰 三冊 清光緒元年刊 龜谷行氏
二十一都懷古詩 清光緒三年補刻 一冊 早稻田大學圖書館
關聖帝君明聖經 清光緒十二年刊 一冊 谷森善臣氏
世界年契 學部編輯局撰 清光緒十九年刊 一冊 山中笑氏
朝鮮歷代史略 學部編輯局校 清光緒二十一年刊 三冊 帝國圖書館
冬郎集 韓致元撰 一冊 韓光武三年刊 荒浪市平氏

刊年不明の部（五十音順）

彙纂麗史 洪如河撰 二十二冊 帝國圖書館
伊洛淵源錄新增 四冊 仝 上
頤齋集 活版 四冊 學習院圖書館
茵陳丸方 活版 富士川游氏
雲石遺稿 趙寅永撰 十冊 帝國圖書館
宛丘遺集 潘綽絢編 二冊 文學博士根本通明氏
歐蘇手簡 一冊 帝國圖書館

誡初心學人文 釋元曉撰 一冊 仝 上
海東辭賦 李奎報等撰 二冊 仝 上
海東名將傳 洪良浩撰 三冊 仝 上
海東名臣錄 九冊 杉山令吉氏
江漢集 黃景源撰 十五冊 東京帝國大學附屬圖書館
沈府開板江華府志 金魯鎭撰 一冊 帝國圖書館
杲齋集 四冊 名古屋三浦兼助氏
攷事撮要 魚叔權撰 三冊 帝國圖書館
御定奎章全韻 一冊 仝 上
定襄墻錄 李福源撰 四冊 仝 上
高峰和尙禪要 釋洪喬祖編 一冊 仝 上
高麗古都徵 韓在濂撰 三冊 關野貞氏
高麗史 鄭麟趾奉勅撰 七十冊 帝國圖書館
高麗名臣傳 南公轍編 六冊 仝 上
學圃先生遺集 梁彭孫撰 二冊 仝 上
葛川先生文集 林薰撰 二冊 仝 上
稼亭先生文集 李穀撰 四冊 仝 上
家禮 二冊 黑川眞道氏
簡易堂集 崔岦撰 六冊 帝國圖書館
簡齋集 宋陳與義撰 三冊 活版 內閣文庫
簡牘精要 一冊 谷森善臣氏

韓文正宗 活版 二冊 內閣文庫
魏鄭公諫錄 二冊 早稻田大學圖書館
熙朝紀事 李慶民編 一冊 帝國圖書館
鄕藥集成方 四冊 仝 上
御製訓書 徐命膺撰 一冊 仝 上
御定奎章全韻 一冊 仝 上
虛白堂集 成俔撰 八冊 仝 上
儀禮註疏 十七冊 黑川眞道氏
金石錄 攝本 一冊 帝國圖書館
皇華集 李荇等唱和 二冊 仝 上
光武五年明時曆 一冊 仝 上
皇明名臣言行錄 二冊 仝 上
果齋集 金鼎鉉撰 四冊 山中笑氏
華東史略 一名十八史略通攷 余進通攷 八冊 元曾先之編 山縣昌臧氏
群書治要 活版 一冊 張維撰 帝國圖書館
谿谷集 十六冊 仝 上
啓蒙篇 一冊 南葵文庫
景濂亭集 卓光茂撰 二冊 東京帝國大學附屬圖書館
決訟指南 金氏撰 一冊 文學博士松本愛重氏
帝國圖書館
仝 上

月汀別集 尹根壽撰 二冊　帝國圖書館
后山詩註 宋陳師道撰 任淵註 二冊　仝　上
孔子家語 王肅猶句解 三冊　仝　上
後漢書志 五十冊　南葵文庫
五經大全 九十八冊　帝國圖書館
國朝實鑑 金尙喆等編 廿二冊　名古屋 三浦兼助氏
古文眞寶 前後集 宋伯眞音釋 七冊　內閣文庫
詳訓 古文眞寶大全前集 三冊　帝國圖書館
金剛山記 趙成夏撰 一冊　仝　上
滄洲集 沈思漢撰 二冊　仝　上
左傳節要 十一冊　南葵文庫
三韻通考 一冊　帝國圖書館
三韻通考 一冊（別本）　仝　上
三綱行實 三冊　伯爵德川達孝氏
山谷全集 十八冊　帝國圖書館
三峯集 釋慧昭編 一冊　仝　上
爾雅注疏 四冊　仝　上
耳溪稿 洪良漢撰 廿二冊　仝　上
自警編 一冊　早稻田大學圖書館
十九史略通考 元曾先之編 余進通考 七冊　帝國圖書館

詩書大全圖 一冊　仝　上
四溟集 釋性一校 一冊　仝　上
詳明算法 一冊　仝　上
壽齋遺稿 李星瑞撰 三冊　仝　上
朱子增損呂氏鄉約 一冊　文學博士 松本愛重氏
儒胥必知 一冊　赤堀又次郎氏
朱文公校昌黎文集 十五冊　帝國圖書館
醇庵集 吳載純撰 五冊　仝　上
春香傳 諺文 一冊　東京外國語學校
松堂集 朴英撰 一冊　帝國圖書館
詩餘圖譜 明張綖撰 二冊　仝　上
書傳大文 二冊　仝　上
二倫行實 二冊　伯爵德川達孝氏
四禮撮要 尹畿培撰 二冊　帝國圖書館
四禮纂說 李氏撰 四冊　仝　上
四禮便覽 李氏撰 四冊　仝　上
心經附註 明程敏政撰 二冊　仝　上
沈昌全 諺文 一冊　山中笑氏
新增東國輿地勝覽 李荇等奉旨撰 二十冊　帝國圖書館
水村集 任埈撰 六冊　東京帝國大學附屬圖書館

靜庵文集 趙光祖撰 三冊　帝國圖書館
清陰先生年譜 宋時烈撰 一冊　仝　上
正音通釋 一冊　東京外國語學校
姓解 宋邵思撰 三冊　帝國圖書館
正音通釋韵考 朴性源選 一冊　谷森善臣氏
西涯擬古樂府 謝鐸等評點 三冊　國圖書館
西岳志 鄭克俊撰 二冊　仝　上
西溪集 朴世堂撰 八冊　仝　上
性理大全 廿六冊　大橋圖書館
捷解新語 康遇聖撰 重刊十冊ノ內二冊　帝國圖書館
小學集說 明程愈編 四冊　帝國圖書館
小華外史 吳慶元撰 六冊　仝　上
小學集說 二冊　中川德基氏
昭代風謠 朴繼姜等編 二冊　帝國圖書館
全韻玉篇 諺文入 二冊　仝　上
全韻玉篇 二冊　早稻田大學圖書館
全韻玉篇 二冊　谷森善臣氏
璿源系譜紀略 八冊　帝國圖書館
璿源系譜紀 一冊　仝　上
千字文 諺文入 一冊　仝　上
千字文 諺文入 一帖　仝　上
千字文 諺文入 一冊　仝　上
千字文 諺文入 一冊（別本）　仝　上
千字文 諺文入 一冊（別本）　仝　上
千字文 諺文入 一冊　仝　上
千字文 一冊　仝　上
千字類合 朝鮮版覆刻 一冊　仝　上
剪燈新話句解 明瞿佑撰 一冊　大橋圖書館
贍慕堂先生文集 林芸撰 二冊　帝國圖書館
宋名臣言行錄 宋朱熹等撰 十九冊　仝　上
續三綱行實 申用漑等撰 二冊　仝　上
續蒙求 明柳李春撰 四冊　文學博士 木村正辭氏
續蒙求分註 明柳希春撰 四冊　帝國圖書館
楚辭 四冊　名古屋 三浦兼助氏
蓀谷集 李達撰 二冊　內閣文庫
太華集 南有常撰 二冊　帝國圖書館
退溪集 李滉撰 三十四冊　東京帝國大學附屬圖書館
太湖集 洪元燮撰 四冊　帝國圖書館
大藏一覽集 明陳實編 活版 一冊　南葵文庫

大東輿地圖 古山子校 廿二枚　帝國圖書館
大明仁孝皇后勸善書 明胡廣撰 十冊　仝　上
棠陰比事 宋桂萬榮撰 一冊 活版　文學博士大槻文彥氏
御定唐宋八子百選 朝鮮內閣校 三冊　帝國圖書館
道德經 一冊
濯纓文集 金馬孫撰 五冊　文學博士大槻文彥氏
澤堂先生集 李植撰 十七冊　帝國圖書館
中庸集略 二冊　仝　上
忠烈實錄 崔鎭漢撰 二冊　仝　上
治腫祕方 一冊　富士川　游氏
地瑠略論 譯文對譯 一冊　山中　笑氏
重山齋集 李趾秀撰 四冊　帝國圖書館
樗軒集 李石亨撰 二冊　仝　上
通文館志 金夏門撰 三冊　仝　上
鄭文翼公集 鄭復先編 一冊　仝　上
朝鮮小說 諺文 一冊　赤堀又次郎氏
篆海心鏡 金萬基撰 二冊　和田萬吉氏
天原發微 宋鮑寧撰 十冊　帝國圖書館
天東象緯考 崔天壁編 八冊　仝　上
桐漁年譜 李敦宇撰 一冊　仝　上

東坡詩集 活版 二冊　赤堀又次郎氏
東坡詩集 十四冊ノ內一冊缺　谷口豐五郎氏
童蒙先習 一冊　法學博士宮崎道三郎氏
童蒙先習 一冊　谷森善臣氏
童蒙先習 一冊　山田安榮氏
東文選 盧思愼等編 五十四冊　帝國圖書館
南華眞經 八冊　谷森善臣氏
入學圖說 一冊 權近撰　帝國圖書館
入學圖說 一冊 權近撰　甲斐青洲文庫
農家集成 一冊 申泳撰　帝國圖書館
梅山集 洪直弼撰 二十八冊　仝　上
排字禮部韻略 / 新刊排字禮部韻略 / 保晚齋集 徐命膺撰 八冊 / 合一冊
白雲齋實紀 二冊 權經錄撰　法學博士宮崎道三郎氏
磻溪隨錄 柳馨遠撰 十三冊　帝國圖書館
百戰奇法 一冊 明章潰撰　仝　上
風謠三選 崔景欽等撰 三冊　仝　上
楓皐集 金祖淳撰 八冊　仝　上
楓皐集 金祖淳撰 八冊　名古屋三浦兼助氏
御武藝圖譜通志 一冊 韓嶠原編　帝國圖書館

佛母孔雀明王經卷下 一冊 宋版覆刻歟　平子鐸嶺氏
御製兵學指南 一冊 崔瀗撰　帝國圖書館
圃隱先生集 鄭夢周撰 三冊　仝　上
牧隱集 李穡撰 二十四冊　仝　上
北征錄 明金幼孜撰 一冊　川田　鷹氏
牧民心鑑 朱逢吉撰 一冊　帝國圖書館
諭訓輯要 春坊官編 三冊　仝　上
高麗版 梵網經菩薩戒 一帖　東京帝國大學附屬圖書館
孟子大文 二冊　帝國圖書館
夢囈集 寬伯居撰 一冊　仝　上
明義錄 金致仁等撰 四冊　仝　上
洋千字文 李遵義撰 一冊　谷森善臣氏
與載撮要 一冊　帝國圖書館
禮記集說大全 十冊　仝　上
老乞大 老乞大 一冊 / 老解 二冊　東京外國語學校
蘭雪軒詩 金誠妻許氏撰 一冊　朝鮮活版　內閣文庫
龍龕手鑑 契丹釋行均撰 七冊　文學博士木村正辭氏
劉向說苑 四冊　仝　上
劉賓客集 唐劉禹錫撰 二冊　帝國圖書館
御製兩賢傳心錄 四冊　仝　上
兩銓便攷 二冊　仝　上
旅軒性理說 六冊　仝　上
麟齋遺稿 李耔編 一冊　仝　上
林忠愍公實紀 林淳憲編 三冊　仝　上
類合 一冊　赤堀又次郎氏
類合 一冊　黑川眞道氏
歷代世年歌 元曾先之編 二冊 活版　帝國圖書館
六經合部 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
六谷先生遺稿 徐必遠撰 三冊　帝國圖書館
六先生遺稿 趙絅校 三冊　仝　上
魯齋全書 明郝衡編 一冊　仝　上
王狀元集註分類東坡先生詩集 宋王十朋編 十五冊　仝　上

乙　版本、版本寫眞

高麗版藏經寫眞 二枚　文科大學史料編纂掛
朝鮮銅活字 大千餘箇小五千五百箇 傳ニ曰ク文祿役獲ル所　南葵文庫

丙　寫本の部（五十音順）

韻府 一冊　早稻田大學圖書館
雲英傳 一冊　帝國圖書館

海行總載五册　帝國圖書館
海東繹史韓大淵編二十六册　仝　上
高麗史鄭麟趾奉敎撰七十册　東京帝國大學附屬圖書館
高麗名臣傳南公轍撰六册　大野豐太氏
樂學軌範成俔撰三册　帝國圖書館　上
鷲洲雜錄三十六册　仝　上
咸山志通紀朱杞撰三册　仝　上
簡牘抄一册　黑板勝美氏
勘亂錄宗寅明等撰四册　帝國圖書館
宮園儀金華鎭等撰二册　仝　上
錦城括覽三册　仝　上
朝鮮國王系譜國記一册　川田鷹氏
國朝彙言十五册　帝國圖書館
桂苑筆耕新羅崔致遠撰三册　法學博士宮崎道三郎氏
經國大典崔恒等奉敎撰四册　林泰輔氏
經世遺表若鏞撰十一册　帝國圖書館
見睫錄七册　仝　上
山經一册　仝　上
三國史記金永等校九册　仝　上
山林經濟六册　仝　上

日得錄史臣奉勅校十一册　仝　上
抄本國朝詩六册　仝　上
新刊大字附音釋文千字文胡曾詩蒙求註一册　仝　上
燃藜室記述附續編四十册　東京帝國大學附屬圖書館
燃藜室紀述續六册　帝國圖書館
大韓地誌一册　仝　上
大義源流彙考二册　仝　上
棠山先生實記白惟咸撰一册　仝　上
度支五禮考七册　仝　上
擇里志青華山人撰一册　仝　上
朝野輯要十七册　仝　上
朝野輯要十七册　文學博士白鳥庫吉氏
典故撮要三册　帝國圖書館
典律通補具允明奉敎撰四册　仝　上
東國史略柳希齡撰五册　仝　上
東國地圖一帖　東京帝國大學附屬圖書館
東國文獻二册　狩野亨吉氏
御製東國文獻備考洪鳳漢等編百一册　帝國圖書館
東國文蹟類聚一册　仝　上
東史會綱林象德編十七册　仝　上

東浦遺稿曹允大撰四册　東京帝國大學附屬圖書館
萬機要覽五册　帝國圖書館
必有所濟八册　仝　上
文苑類函七册　仝　上
圃隱集三册　學習院圖書館
卜筮元龜一册　早稻田大學圖書館
漫筆三錄六册　帝國圖書館
龍飛御天歌鄭麟趾撰五册　仝　上
嶺南邑志十六册　仝　上

第二類　慶長並其以前の本邦刻本

甲　刊年明確の部（年代順）

無垢淨光經陀羅尼三種三卷　寶龜元年刊　東京帝國大學附屬圖書館
無垢淨光經陀羅尼寶龜元年刊一卷　帝國圖書館
往生要集承元四年刊六帖　東京帝國大學附屬圖書館
梵網經盧舍那佛說菩薩心地法門
品第十一卷　建長二年刊歟　帝國圖書館
釋大衍論建長八年刊十册　成田圖書館下總
南浦語錄文永九年刊一册　內閣文庫
上新請來經等目錄表建治三年刊歟一册　帝國圖書館

請來目錄正安四年刊一册　仝　上
密庵禪師語錄正應元年刊一册　東京帝國大學附屬圖書館
菩薩戒本正應三年刊一册　延寶五年覆刻　赤堀又次郎氏
聚分韻略德治二年刊一册　文學博士大槻文彥氏
聚分韻略明應二年刊一册　內閣文庫
聚分韻略永正元年刊一册　仝　上
聚分韻略享祿三年刊一册　仝　上
聚分韻略享祿三年刊一册　京都田中勘兵衛氏
三部經元亨二年刊四帖　東京帝國大學附屬圖書館
四分戒本元亨二年刊一帖　仝　上
來々禪子集元弘元年刊一册　仝　上
大方廣佛花嚴經隨疏演義鈔卷第
二上唐釋澄觀撰　獲宋版　正慶元年刊　平子鐸嶺氏
首楞嚴經義疏曆應二年刊十册　帝國圖書館
圓悟心要曆應四年刊四册　仝　上
靈源和尚筆語曆應四年刊一册　東京帝國大學附屬圖書館
夢中問答康永三年刊三册　帝國圖書館
古林和尚偈頌拾遺康永四年刊一册　東京帝國大學附屬圖書館
五家正宗贊貞和五年刊一册　帝國圖書館
景德傳燈錄釋宗應校　貞和延文中刊十册　仝　上

蒲室集 延文四年刊 一册　帝國圖書館
論語集解 正平十九年刊 五册　内閣文庫
論語集解 正平十九年原版補刻 四册　早稲田大學圖書館
論語集解 大永年中刊歟 二册　帝國圖書館
南宗論語 一名東京晉論 天文二年刊 二册　内閣文庫
南宗論語 一名東京晉論 二册　天文二年刊　文學博士星野恒氏
南宗論語 天文二年刊 二册　文學博士木村正辭氏
南宗論語 天文二年刊 二册　早稲田大學圖書館
南宗論語 天文二年刊 二册　法學博士甲斐戸水寛人氏
古版論語 圓珠經 慶長前活版歟 二册　青洲文庫
夢窻國師語錄卷下 貞治四年刊 一册　野中完一氏
禪林類聚 貞治六年刊 五册　東京帝國大學附屬圖書館
禪林類纂 貞治六年刊 二十册　帝國圖書館
虎丘和尚語錄 貞治七年刊 一册　仝　上
虎丘和尚語錄 貞治七年刊 一册　東京帝國大學附屬圖書館
金剛纂要 唐釋宗密撰　貞治年中刊 一册　帝國圖書館
五燈會元 釋宗應校　應安元年刊 十册　仝　上
南堂禪師語錄 應安元年刊 四册　東京帝國大學附屬圖書館
南堂和尚語錄 應安元年刊 六册　帝國圖書館
應庵和尚語錄 應安三年刊 三册　東京帝國大學附屬圖書館

破庵和尚語錄 應安三年刊 一册　帝國圖書館
破庵和尚語錄 應安三年刊 一册　東京帝國大學附屬圖書館
無準和尚語錄 應安三年刊 四册　帝國圖書館
開福寧和尚語錄 應安六年刊 一册　東京帝國大學附屬圖書館
歷代帝王編年互見圖 宋馬仲虎撰 永和二年刊 一册　帝國圖書館
念大休 永和四年刊 一册　内閣文庫
五百家音注柳先生集 嘉慶元年刊 十一册　帝國圖書館
排韵氏族大全 明張溥校　明德元年刊歟 六册　仝　上
三國佛法傳通緣起 釋凝然撰 應永六年刊 一册　内閣文庫
月庵和尚法語 應永十年刊 一册　文學博士大槻文彦氏
藏乘法數 應永十七年刊 一册　下總成田圖書館
藏乘法數 應永十七年刊 一册　早稲田大學圖書館
藏乘法數 應永十七年刊 一册　山中笑氏
清涼寺融通念佛緣起 應永二十一年刊 二册　帝國圖書館
旱霖集 應永二十九年刊 一册　内閣文庫
徹應和尚語錄 應永三十二年刊 一册　帝國圖書館
慧照禪師語錄 永享九年刊 一册　仝　上
錦繡段 康正二年刊 一册　仝　上
碧巖集 文明年中刊 五册　今泉雄作氏
三體詩註 明應三年刊 一册　帝國圖書館

三體詩註 明應三年刊 二册　文學博士大槻文彦氏
三體詩註 足利版　明應三年刊 三册　赤堀又次郎氏
大原談義聞書 永正十七年刊 一册　内閣文庫
臂書大全 明熊宗立撰 二十四册　大永八年刊　帝國圖書館
臂書大全 明熊宗立編 六册　大永八年刊　富士川游氏
歷代序略 明梁寅撰　天文二十三年刊 一册　文學博士大槻文彦氏
貞永式目抄 天文活版 二册　仝　上
日本書紀神代卷 天文活版歟 二册　荒川信賢氏
節用集 天正十八年刊 二册　東京帝國大學附屬圖書館
蒙求 文祿二年活版 二册　帝國圖書館
蒙求補注 文祿五年活版 三册　文學博士木村正辭氏
地藏菩薩十王經 文祿三年刊 一册　京都田中勘兵衛氏
愛人集 易林節用集　慶長二年刊 二册　南葵文庫
節用集 易林本　慶長二年刊 一册　帝國圖書館
節用集 易林本　慶長二年刊 二册　仝　上
節用集 易林本　慶長二年刊 一册　文學博士星野恒氏
節用集 易林本　慶長二年刊 一册　伯爵德川達孝氏
節用集 易林本　慶長二年刊 一册　大橋圖書館
節用集 慶長二年刊 二册　川田鷹氏
節用集 慶長二年刊 二册　京都田中勘兵衛氏

節用集 行草書本　慶長年中刊 一册　文學博士星野恒氏
勸學文 慶長二年刊 一册　早稲田大學圖書館
延壽撮要 今大路支朔撰 附原稿本　慶長四年活版 二册　富士川游氏
孔子家語 慶長四年活版 四册　帝國圖書館
徒然草壽命院抄 慶長六年活版 二册　東京帝國大學附屬圖書館
古文孝經 慶長七年刊 一册　山中笑氏
假名安驥集 道派叟撰　慶長九年刊 六册　文學博士木村正辭氏
四體千字文 慶長九年刊 一册　内閣文庫
四體千字文 慶長十一年刊 一册　山中笑氏
四體千字文 慶長十一年刊 一册　仝　上
四體千字文 慶長十一年刊(異版)　仝　上
四體千字文 慶長十一年刊 一册　南葵文庫
大廣益會玉篇 慶長九年刊 五册　法學博士宮崎道三郎氏
東鑑 慶長十年刊 五十一册　帝國圖書館
周易王弼注 重言重意本　慶長十年刊 三册　文學博士木村正辭氏
七書 慶長十一年刊 七册　法學博士宮崎道三郎氏
七書 慶長十一年刊 七册　種村宗八氏
七書 慶長十一年刊 一册　山中笑氏
帝鑑圖說 慶長十一年活版 六册　野中完一氏
帝鑑圖說 慶長年中刊 六册　帝國圖書館
解紛記 慶長十二年活版 四册　内閣文庫

貞永式目 慶長十二年刊 一冊　文學博士 星野恒氏
貞永式目 慶長十二年刊 一冊　早稲田大學圖書館
職原鈔 慶長十三年活版 二冊　野中完一氏
伊勢物語 慶長十三年刊 二冊　東京帝國大學附屬圖書館
伊勢物語 慶長十三年刊 二冊　文學博士 星野恒氏
日本書紀 慶長十四年刊 十五冊　南葵文庫
日本書紀 慶長十五年活版 七冊　內閣文庫
日本書紀 慶長十五年刊 五冊　文學博士 木村正辭氏
日本書紀 慶長十五年刊 十五冊　帝國圖書館
日本書紀 慶長活版 十冊　京都 田中勘兵衛氏
日本書紀零本 慶長活版 一冊　文學博士 木村正辭氏
日本書紀零本 慶長活版 四冊　仝　上
論語集解 慶長十四年活版 二冊　南葵文庫
論語集解 慶長十四年活版 二冊　文學博士 木村正辭氏
論語集解 慶長十四年活版 二冊　法學博士 戶水寬人氏
論語 要法寺本 慶長版 二冊　仝　上
論語 慶長版 無跋 二冊　仝　上
倭玉篇 慶長十五年刊 三冊　文學博士 松本愛重氏
倭玉篇 慶長十八年刊 一冊　法學博士 宮崎道三郎氏
倭玉篇 慶長十八年刊 二冊　文學博士 大槻文彥氏
倭玉篇 慶長十八年刊 三冊
倭玉篇 慶長十八年刊 三冊
大乘起信論疏 慶長十七年活版 二冊
百官 並禮節 慶長十七年活版 一冊　帝國圖書館
古文眞寶後集 慶長十九年活版 二冊　京都 田中勘兵衛氏
古文眞寶後集 慶長十九年活版 二冊　野中完一氏
古文眞寶後集 慶長活版 二冊　內閣文庫
句解南華眞經 宋林希逸注 慶長活版 十冊　山縣昌臧氏
書札禮事 慶長活版 一冊　中川德基氏
曾我物語 慶長活版 十二冊　帝國圖書館
無言抄 釋應其編 慶長活版 三冊（光悅本）　文學博士 星野恒氏
毛詩 慶長活版 十冊　畠山健氏
　　野中完一氏
　　文學博士 根本通明氏

乙　刊年不明の部（五十音順）

醫學正傳 明虞摶撰 八冊　大野豐太氏
運庵和尚語錄 五山版 一冊　帝國圖書館
慧照禪師語錄 五山版 一冊　仝　上
應庵和尚語錄 五山版 三冊　仝　上
海藏韻略 刊本 二冊　仝　上
圖廓庵和尚十牛圖 五山版 入一冊　早稲田大學圖書館
原人論 活版 一冊　赤堀又次郎氏
興禪記 釋靜照撰 一冊　帝國圖書館
五經正文 山口本 十一冊　仝　上
古語拾遺 一冊　川田鷹氏
胡曾詠史詩 一冊　帝國圖書館
坐禪儀 五山版 合一冊　早稲田大學圖書館
入衆日用 五山版 合一冊　帝國圖書館
宗門武庫 五山版 一冊　仝　上
聚分韻略 九冊　南葵文庫
尙書 三冊　赤堀又次郎氏
成唯識論 春日版 一卷　東京帝國大學附屬圖書館
成唯識論卷第九 春日版 一卷　帝國圖書館
成唯識論 一帖　仝　上
成唯識論述記 春日版 二十帖　仝　上
松源和尚語錄 五山版 二冊　仝　上
諸家傳 一冊　朝倉龜三氏
信心銘 五山版 一冊
證道歌 饅頭屋本 一冊　早稲田大學圖書館
節用集 一冊　帝國圖書館
笑隱和尚語錄 一冊　仝　上
全室和尚語錄 釋自性等編 五山版 一冊　仝　上
撰集抄 三冊　下總 成田圖書館
禪門寶訓集 東吳釋淨善撰 一冊　帝國圖書館
僧寶正續傳 釋祖琇撰 一冊　仝　上
祖庭事苑 宋釋善珙撰 五山版 一冊　下總 成田圖書館
大乘起信論 一冊　仝　上
大日經義釋 唐釋一行撰 十四卷ノ內二冊　仝　上
大日經疏 二十冊　仝　上
唐朝四賢精詩 一冊　帝國圖書館
鐔津文集 宋釋契嵩撰 五山版 六冊　仝　上
貞永式目注 二冊　仝　上
貞觀政要 活版 八冊　文學博士 星野恒氏
日本書紀零本 傳云家康公銅活字版 二冊　文學博士 木村正辭氏
人天寶鑑 宋釋曇秀撰 五山版 一冊　帝國圖書館
仁王經 千歲版歟 二卷ノ內一卷　赤堀又次郎氏
保元物語 活版 二冊　文學博士 星野恒氏
祕藏記本 二冊　下總 成田圖書館
勅育丈清規 宋釋德輝撰 修 二冊　帝國圖書館
佛垂般涅槃略說教誡經 一冊　仝　上
佛說無量淸淨平等覺經 一冊　仝　上
平治物語 活版 三冊　文學博士 星野恒氏
碧巖集 瑞龍寺版 五冊　早稲田大學圖書館

碧巖錄 宋克勤撰 五冊　帝國圖書館
遍照發揮性靈集 慶長以前刊歟 五冊　南葵文庫
遍照發揮性靈集補闕抄卷第六至十 室町時代刊 五冊
北澗詩文集 五山版 八冊　文學博士松本愛重氏
蒲室集 五冊　帝國圖書館
密庵和尚語錄 五山版 二冊　下總成田圖書館
增註蒙求 一冊　帝國圖書館
毛詩 五冊　文學博士根本通明氏
老子鬳齋口義 宋林希逸撰 一冊　帝國圖書館
歷代帝王紹運圖 宋諸葛深撰 一冊　仝
列子鬳齋口義 宋林希逸撰 一冊　仝
論語 國訓本 一冊　法學博士戸水寛人氏

丙　版木、同搨寫、版本寫眞

眞言儀軌板木 永正八年刻 一枚　大野豐太氏
世親攝論板木 五六百年前ノ板歟 一枚　仝
興福寺所藏經文版木搨本 一綴　黑板勝美氏
古版木摺寫 一冊　赤堀又次郎氏
刻本度牒寫眞 一枚　文科大學史料編纂掛

寛治版成唯識論卷第五寫眞 一枚　仝
寛治版成唯識論卷第十奥書寫眞 一枚　仝
承久版成唯識論卷第十跋寫眞 一枚　仝
曆應版首楞嚴義疏注經奥書寫眞 一枚　仝

第三類　金平本類

甲　刊年明確の部（年代順）

石橋山七騎落 正保四年刊 一冊　狩野亨吉氏
平のもみぢがり 明曆四年刊 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
くらまがくれ文あらひ 萬治二年刊 一冊　仝
四天王武者執行 萬治二年刊 一冊　仝
道風額揃 萬治三年刊 一冊　仝
公平末春 萬治三年刊 一冊　狩野亨吉氏
天狗ノ羽討 萬治三年刊 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
藤原大石山丸 萬治四年刊 一冊　仝
曾我三日目石橋山合戰 萬治四年刊 一冊　仝
つるぎ金子問答 寛文元年刊 一冊　仝
げんじ綱五代の傳記金時最後 寛文元年刊 一冊　仝
日本つはもの揃へ義經地獄破 寛文元年刊 一冊　仝
あさひなかたき論 寛文二年刊 一冊　仝

公平關破 寛文二年刊 一冊　狩野亨吉氏
賴光蜘蛛切 寛文二年刊 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
ゆり若大臣 寛文二年刊 一冊　仝
子四天王北國合戰 寛文二年刊 一冊　仝
甲州一條合戰 寛文二年刊 一冊　仝
善光寺本地 寛文二年刊 一冊　仝
あさひなしまわたり 寛文二年刊 一冊　仝
金平法問諍 寛文二年刊 一冊　仝
源平武將論 寛文二年刊 一冊　仝
菅原親王 寛文三年刊 一冊　仝
公平甲論 寛文三年刊 一冊　仝
四天王金剛山合戰 寛文三年刊 一冊　仝
佐々木問答 寛文三年刊 一冊　仝
なすふないこん 寛文三年刊 一冊　仝
渡邊三田合戰 寛文三年刊 一冊　仝
金時都入 寛文四年刊 一冊　仝
公平化生論 寛文四年刊 一冊　仝
漉根惡太郎 寛文四年刊 一冊　仝
渡邊智略討 寛文五年刊 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
さんねの入道よりまさ 寛文五年刊 一冊　仝

八幡本地 寛文五年刊 一冊　仝
十羅刹女さしはの神 寛文七年刊 一冊　仝
の由來 寛文七年刊 一冊　仝
書物賣にたんし四郎 寛文七年刊 一冊　仝
多田滿仲 寛文八年刊 一冊　仝
源平敵討のいこん 寛文八年刊 一冊　仝
賴朝三代記 寛文九年刊 一冊　仝
新高館 寛文九年刊 一冊　仝
佐野源左衛門 寛文十年刊 一冊　仝
西國巡番順禮記 寛文十年刊 一冊　仝
三たむら將軍 寛文十一年刊 一冊　仝
金平さいご 寛文年中刊 一冊　宮崎瑾藏氏
爲義產宮詣 延寶三年刊 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
ごばん忠信 延寶四年刊 一冊　仝
島千歲女わかのまへ 延寶四年刊 一冊　仝
四天王筑紫責 延寶五年刊 一冊　仝
清原右大將 延寶五年刊 一冊　仝
らいくわとめ論 延寶五年刊 一冊　仝
大內花見車 延寶五年刊 一冊　仝
たえ中將姫本地 延寶五年刊 一冊　仝
殿上關討女袖鑑 延寶五年刊 一冊　仝

神武天皇 延寶五年刊 一冊　東京帝國大學附屬圖書館　上
頼朝三島詣 延寶六年刊 一冊　仝　上
三社託宣由來 延寶六年刊 一冊　仝　上
大峯の本地 貞享二年刊 一冊　仝　上
ささきあらそひ 貞享四年刊 一冊　仝　上
義經記 元祿二年刊 七冊　帝國圖書館　上
往生要集 元祿二年原版 寛政二年再刊 三冊　早稲田大學圖書館　上
用明天王 元祿四年刊 一冊　東京帝國大學附屬圖書館　上
平家物語 元祿七年刊 一冊　甲斐青洲文庫　上
武德鑑 寶永七年刊 一冊　東京帝國大學附屬圖書館　上
繪入田原藤太 寶永五年刊 一冊　仝　上
行基菩薩誕生記 正德三年刊 一冊　仝　上
耆婆誕生記 正德三年刊 一冊　仝　上
上州はるな山大權現御本地 正德五年刊 一冊　仝　上
秀平五代記 正德六年刊 一冊　仝　上
出世太平記 享保三年刊 一冊　仝　上
惠美酒本地 享保四年刊 一冊　仝　上
弘法大師之御本地 享保四年刊 一冊　仝　上
阿彌陀胸割 享保六年刊 一冊　仝　上
熊谷物語 享保六年刊 一冊　仝　上
頼四天王の始 享保六年刊 一冊　仝　上
頼光山いり 奥村政信畫 享保六年刊 一冊　帝國圖書館　上
新田四天王 享保七年刊 一冊　東京帝國大學附屬圖書館　上
小栗の判官 享保七年刊本覆刻 一冊　帝國圖書館　上

乙　刊年不明の部（五十音順）

あたごの本地 一冊　狩野亨吉氏
權五郎いかづち論 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
公平勢揮九 江戸紫撰 奥村政信畫 一冊　宮崎幸麿氏
大竹丸 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
女鎌足 一冊　宮崎幸麿氏
苟萱道心物語 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
京今宮本地 一冊　狩野亨吉氏
金平かぶとろん 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
公平誕生記 一冊　狩野亨吉氏
公平百物語 一冊　帝國圖書館
金平むしや修行 一冊　朝倉龜三氏
楠正成怨靈 一冊　東京帝國大學附屬圖書館
三人法師 一冊　仝　上
四天王女大力手捕軍 一冊　狩野亨吉氏
四天王最後 一冊　東京帝國大學附屬圖書館　上
四天王若ざかり 一冊　仝　上
聖德太子傳 一冊　仝　上
しやかの本地 一冊　仝　上
出世稚握虎 一冊　仝　上
末武印問答 一冊　仝　上
日本大將ぞろへ 一冊　仝　上
鶴の双紙 一冊　帝國圖書館　上
どうけうたひかる口 一冊　宮崎幸麿氏
日本兩武將始 一冊　狩野亨吉氏
八幡太郎誕生記 一冊　東京帝國大學附屬圖書館　上
佛惣王法藏比丘 一冊　仝　上
北條五代記 一冊　仝　上
石見大滿八大人ぼん天國 一冊　仝　上
してんわうやはぎ合戰 一冊　仝　上
山崎長者物語 一冊　仝　上
八百屋お七 一冊　宮崎幸麿氏
山中常盤 一冊　東京帝國大學附屬圖書館　上
和田軍 一冊　仝　上

86/1/15

東京神田 盤田活版所印刷

明治三十八年四月
二日起筆
[illegible]